

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員					
保育原理 (Principles of ECCE)		喜舎場 勤子					
授業の到達目標及びテーマ							
知識理解：保育の目的・内容・方法等の基礎知識を理解し、歴史や制度を踏まえた説明ができる。							
思考判断：社会変化と保育の相関を理解し、派生する課題を指摘できる。							
様々な課題を整理し、問いを立てることができる。							
関心意欲：新聞等の関連報道に興味を持つ。							
態 度：質問し意見を述べる。							
授業の概要							
保育原理では、保育の基本的な事項について学ぶ。保育者は、限られた個人的信条や経験にのみとらわれることなく、理論的根拠や学問的背景に基づいて自らの保育を実践していくことが求められる。したがって、当授業では保育制度・内容・方法・子ども観等の基本知識の習得を目的とし、保育を取り巻く諸課題についても触れる。現場の実践から得た知見と先人の思想や諸領域からの学術的知見等、基礎となる理論的基盤を学ぶ。							
授 業 計 画							
第 1 回：      オリエンテーション	第 9 回：      保育の制度と現状②						
第 2 回：      保育の対象と場	第 10 回：     保育施設の誕生と発展（西欧）						
第 3 回：      子どもの最善の利益と保育	第 11 回：     保育施設の誕生と発展（日本）						
第 4 回：      子ども理解	第 12 回：     保育施設の誕生と発展（日本）						
第 5 回：      発達観	第 13 回：     現代社会と子ども						
第 6 回：      『保育所保育指針』について	第 14 回：     保育政策の動向①						
第 7 回：      保育の制度と現状①	第 15 回：     保育政策の動向②						
第 8 回：      『幼稚園教育要領』について	第 16 回：     定期試験						
テキスト：    森上史郎ほか編『新保育講座 保育原理』ミネルヴァ書房							
参 考 書：    厚生労働省『保育所保育指針』・文部科学省『幼稚園教育要領』 その他必要なものはプリントを配布する							
評価方法・評価基準：							
成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○	○					60
小テスト・ 授業内レポート	○	○					20
授業態度			○	○			10
受講者の発表							評価に加えず
演 習							評価に加えず
授業への参加度			○	○			10
その他							
履修上の注意：    講義形式の授業ですが双方向型の講義を重視しできるだけ発言の機会をもうける。 提出物は期限厳守。    レポートについては初回講義時に説明予定。							

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員					
教育原理 (Principles of Education)		喜舎場 勤子・糸洲理子					
授業の到達目標及びテーマ							
知識理解：教育の機能・目的・方法等について基礎知識を理解し説明できる。 「学校」「教育課程」「学力観」等について説明できる。							
思考判断：学校を取り巻く諸問題を歴史や制度の変遷に照らし合わせ課題等が指摘できる。							
関心意欲：教育に関する時事問題に興味を持つ。							
態度：質問し意見を述べる。							
授業の概要							
教育原理では、教育の基本的事項について学ぶ。具体的には、「教育とは何か」「なぜ学校へ行くのか」等、自明の理として突き詰めて考えられる事の少ないこれらに焦点をあて、「教育」という営みそのものを問い直す。教育が社会の中でどのように誕生し営まれてきたのか、その歴史的・思想的変遷から学び、現代教育へのつながりを理解する。また、教育及び教育機関を取り巻く諸問題を取り扱い、それらに含まれる教育課題の考察をとおして多角的に教育を見る目を養う。							
授 業 計 画							
第 1 回：     オリエンテーション	第 9 回：     子どもの問題と学校教育①						
第 2 回：     人間形成と教育機能	第 10 回：    子どもの問題と学校教育②						
第 3 回：     社会と学校	第 11 回：    課題発表①						
第 4 回：     学校論とその課題	第 12 回：    課題発表②						
第 5 回：     発達と尺度	第 13 回：    家庭の教育力について						
第 6 回：     「子ども」の誕生	第 14 回：    社会変化と教育課題						
第 7 回：     「子ども」の再考	第 15 回：    学校観の変化						
第 8 回：     教育内容とカリキュラム	第 16 回：    定期試験						
テキスト：							
参 考 書： 文部科学省『幼稚園教育要領』・厚生労働省『保育所保育指針』、必要に応じてプリント対応							
評価方法・評価基準：							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○					60
小テスト・ 授業内レポート	○	○					20
授業態度			○	○			10
受講者の発表							評価に加えず
演 習							評価に加えず
授業への参加度			○	○			10
その他							
履修上の注意： 講義形式の授業ですが双方向型の講義を重視しできるだけ発言の機会をもうける。 提出物は期限厳守。 レポートについては初回講義時に説明予定。							

授業科目名		2単位 (2－0)	担当教員				
児童家庭福祉（＝児童福祉） (Child Welfare)			川西 康裕				
授業の到達目標及びテーマ							
1. 現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解します。 2. 児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解します。 3. 児童家庭福祉の制度や実施体系等について理解します 4. 児童家庭福祉の現状と課題について理解します。 5. 児童家庭福祉の動向と展望について理解します。							
授業の概要							
子どもの存在は親たちの喜びであり、子育ては親たちの生きがいではありますが、しかし、この子育てがなかなか難しい現実も、私たちの社会は抱えています。子どもたちの健やかな育ちのための福祉制度のいまを理解します。学習の発展として、居住地域で現場体験をおこないます。							
授 業 計 画							
第 1 回： オリエンテーション		第 9 回： 保育					
第 2 回： 児童家庭福祉の定義		第 10 回： 児童養護問題					
第 3 回： 児童家庭福祉の課題 －現代社会と子どもの生活		第 11 回： 非行問題					
第 4 回： 児童家庭福祉の理念		第 12 回： 障害児福祉					
第 5 回： 児童家庭福祉の歴史		第 13 回： 児童家庭福祉の専門職					
第 6 回： 児童家庭福祉および 関連施策の体系		第 14 回： 世界の子どもたちと 「子どもの権利に関する条約」					
第 7 回： 児童家庭福祉の法制度		第 15 回： まとめ・授業内試験					
第 8 回： 居住地域での児童家庭福祉現場 体験							
テキスト： 松本園子、堀口美智子、森 和子『児童家庭福祉を学ぶ－子どもと家庭に対する支援－』 ななみ書房、2015 年 [小六法] 『保育小六法 2015』ミネルヴァ書房、2015 年							
評価方法・評価基準：							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
レポート 現場体験	○	○	○				50
期末試験	○	○	○				50
授業態度・ 授業への参加度			○	○			+α
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度							
その他（小レポート、 質問）	○	○	○				+α
履修上の注意： テキストと『保育小六法 2015』を必ず購入してください。居住地域の現場体験は未体験の 通所施設（認可保育所を除く）を対象にします。時事問題に即して講義の順序は変更することがあります。							

授業科目名		2単位 (2－0)	担当教員				
社会福祉 (Social Welfare)			川西 康裕				
授業の到達目標及びテーマ							
1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について理解します。 2. 社会福祉と児童家庭福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解します。 3. 社会福祉の制度や実施体系等について理解します。 4. 社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解します。 5. 社会福祉の動向と課題について理解します。							
授業の概要							
私たち自らが主権者として、また社会福祉の利用者として、社会福祉とは何かを考えます。また、保育者として必要な社会福祉にかんする基礎的知識を習得します。学習の発展として、居住地域で社会福祉現場体験をおこないます。							
授 業 計 画							
第 1 回：   オリエンテーション		第 9 回：   社会福祉現場体験レポート					
第 2 回：   社会福祉の理念		第 10 回：   社会福祉の専門職					
第 3 回：   社会福祉の歴史		第 11 回：   社会福祉の動向 (少子高齢社会と子ども)					
第 4 回：   社会福祉と児童家庭福祉		第 12 回：   社会福祉の動向 (高齢者と障害者)					
第 5 回：   社会福祉の法律と財政		第 13 回：   社会福祉の動向 (住民参加の地域づくり)					
第 6 回：   社会保障と社会保険		第 14 回：   市町村の社会福祉計画					
第 7 回：   利用者保護の制度		第 15 回：   まとめ・授業内試験					
第 8 回：   居住地域での社会福祉現場 体験							
テキスト：吉田眞理『生活事例からはじめる社会福祉』青踏社、2015 年 （変更の可能性あり） [小六法]   『社会福祉小六法 2015』ミネルヴァ書房、2014 年							
評価方法・評価基準：授業への参加度、感想・テキスト読後レポート、現場体験レポート、 調査レポートなどにより総合的に評価し、その評価を学生に伝達します。							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
レポート 現場体験	○	○	○				50
期末試験	○	○	○				50
授業態度			○	○			+α
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度							
その他（小レポート、 質問）	○	○	○				+α
履修上の注意：							
テキストと『社会福祉小六法』を必ず購入してください。社会福祉現場体験は高齢者または障害者を対象におこないます。時事問題に即して講義の順序は変更することがあります。							

授業科目名		2単位 (2-0)	担当教員				
キリスト教保育 (Introduction to Christian Education)			喜舎場 勤子				
授業の到達目標及びテーマ							
知識理解：キリスト教保育の「世界観」「人間観」「子ども観」「共生」について説明できる。 「子ども礼拝」や「教会歴の保育行事」等について説明できる。							
思考判断：学んだ知識を保育実践や様々な課題と照らし合わせた思考ができる。							
関心意欲：国内外の子どもを取り巻く諸状況に興味を持つ。							
態 度：質問し意見を述べる。							
授業の概要							
キリスト教保育は、日本における創設期から発展の過程において、近代保育を形づくる重要な役割を担い多大な影響を与えてきた。当該授業では、聖書にえがかれる人間観や子ども観にふれ、キリスト教保育の根幹である「共生」の視点を理解する。また、保育において重要な部分を占める「子ども礼拝」「保育行事」について、基礎的な事項を学ぶとともに実践に役立つ知識を習得する。							
授 業 計 画							
第 1 回：オリエンテーション		第 9 回：聖書のお話③					
第 2 回：聖書の人間理解		第 10 回：キリスト教保育と保育者					
第 3 回：聖書の子ども理解		第 11 回：教会歴と保育行事①クリスマス					
第 4 回：子ども礼拝		第 12 回：教会歴と保育行事②イースター					
第 5 回：讃美歌について		第 13 回：教会歴と保育行事③ペンテコステ					
第 6 回：祈りについて		第 14 回：キリスト教保育と平和①					
第 7 回：聖書のお話①		第 15 回：キリスト教保育と平和②					
第 8 回：聖書のお話②		第 16 回：定期試験					
テキスト：キリスト教保育連盟『新キリスト教保育指針』2010							
参 考 書：							
評価方法・評価基準：							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価							
試験 (中間・期末試験)	○	○					40
小テスト・ 授業内レポート							評価に加えず
授業態度			○	○			10
受講者の発表	○	○					40
演 習							評価に加えず
授業への参加度			○	○			10
その他							
履修上の注意：講義形式の授業ですが双方向型の講義を重視してできるだけ発言の機会をもうける。 提出物は期限厳守。課題については初回講義時に説明予定。提出物は期限厳守。							

授業科目名	2単位 (2－0)	担当教員																																																													
発達心理学Ⅰ (Developmental PsychologyⅠ)		大城りえ・池田尚子																																																													
授業の到達目標及びテーマ 子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。さらに、初期経験の重要性を理解し、保育との関連を考察する。																																																															
授業の概要 人間は発達可能性にみちた存在であることを理解する。その上で、乳幼児の発達の特徴を学び、保育者に求められるかかわりを理解する。さらに、障がいをもつ子どもたちの発達の理解を深める。																																																															
授 業 計 画																																																															
<table><tr><td>第1回：</td><td>オリエンテーション、発達心理学とは</td><td>第9回：</td><td>乳幼児期：認知の発達</td></tr><tr><td>第2回：</td><td>人間発達とその特徴 (発達段階・発達課題)</td><td>第10回：</td><td>：ことばの発達</td></tr><tr><td>第3回：</td><td>発達を規定する要因</td><td>第11回：</td><td>：感情の発達と自我</td></tr><tr><td>第4回：</td><td>胎児期の発達</td><td>第12回：</td><td>：遊びの発達</td></tr><tr><td>第5回：</td><td>乳幼児期：身体的機能と運動機能の発達</td><td>第13回：</td><td>障がいを持つ子どもたちの理解①</td></tr><tr><td>第6回：</td><td>：愛着の発達①</td><td>第14回：</td><td>障がいを持つ子どもたちの理解②</td></tr><tr><td>第7回：</td><td>：愛着の発達②</td><td>第15回：</td><td>まとめ・授業内試験</td></tr><tr><td>第8回：</td><td>乳幼児期：知覚の発達</td><td></td><td></td></tr></table>			第1回：	オリエンテーション、発達心理学とは	第9回：	乳幼児期：認知の発達	第2回：	人間発達とその特徴 (発達段階・発達課題)	第10回：	：ことばの発達	第3回：	発達を規定する要因	第11回：	：感情の発達と自我	第4回：	胎児期の発達	第12回：	：遊びの発達	第5回：	乳幼児期：身体的機能と運動機能の発達	第13回：	障がいを持つ子どもたちの理解①	第6回：	：愛着の発達①	第14回：	障がいを持つ子どもたちの理解②	第7回：	：愛着の発達②	第15回：	まとめ・授業内試験	第8回：	乳幼児期：知覚の発達																															
第1回：	オリエンテーション、発達心理学とは	第9回：	乳幼児期：認知の発達																																																												
第2回：	人間発達とその特徴 (発達段階・発達課題)	第10回：	：ことばの発達																																																												
第3回：	発達を規定する要因	第11回：	：感情の発達と自我																																																												
第4回：	胎児期の発達	第12回：	：遊びの発達																																																												
第5回：	乳幼児期：身体的機能と運動機能の発達	第13回：	障がいを持つ子どもたちの理解①																																																												
第6回：	：愛着の発達①	第14回：	障がいを持つ子どもたちの理解②																																																												
第7回：	：愛着の発達②	第15回：	まとめ・授業内試験																																																												
第8回：	乳幼児期：知覚の発達																																																														
テキスト：新保育士養成講座編集委員会（編）新保育士養成講座 第6巻 保育の心理学 全国社会福祉協議会 その他担当者が準備する。																																																															
参 考 書： 随時、紹介する。																																																															
評価方法・評価基準：期末試験、授業内レポート（毎時間提出）、授業への参加度																																																															
<table><tr><td>到達目標等</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>態度</td><td>技能・表現</td><td>その他</td><td>評価割合(%)</td></tr><tr><td>成績評価 試験 (中間・期末試験)</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td>50</td></tr><tr><td>小テスト・ 授業内レポート</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td>35</td></tr><tr><td>授業態度・ 授業への参加度</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>15</td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>評価に加えず</td></tr><tr><td>演 習</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>評価に加えず</td></tr><tr><td>その他</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○		○			50	小テスト・ 授業内レポート	○		○				35	授業態度・ 授業への参加度			○	○			15	受講者の発表							評価に加えず	演 習							評価に加えず	その他														
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																								
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○		○			50																																																								
小テスト・ 授業内レポート	○		○				35																																																								
授業態度・ 授業への参加度			○	○			15																																																								
受講者の発表							評価に加えず																																																								
演 習							評価に加えず																																																								
その他																																																															
履修上の注意：																																																															

授業科目名		2単位 (2－0)	担当教員				
乳児保育（＝乳児保育演習） (Seminar in Prenursery Education)			大城 りえ・山城 いとこ・仲宗根 京子				
授業の到達目標							
乳児保育の理念と役割、現状と課題について理解する。また、発達の特徴をふまえた3歳未満児の生活と遊びについて理解する。さらに、乳児保育の計画や記録等について意義や方法を理解する。							
授業の概要							
乳児保育の基本と3歳未満児の発達の特徴をふまえ、生活と遊びについて学ぶ。 また、演習を通して、乳児の世話の仕方や、必要な道具の扱い方を習得する。 それらをふまえ、保育所保育指針に基づいた乳児保育の実践、計画等を理解する。							
授 業 計 画							
第1回：オリエンテーション、乳児保育とは		第9回：オムツ替え・着替えの実習					
第2回：乳児保育の実際：ある保育園の1日（ビデオ学習）		第10回：保育所保育指針と乳児保育①					
第3回：乳児保育の理念と役割		第11回：保育所保育指針と乳児保育②					
第4回：乳児保育の現状と課題		第12回：乳児保育の計画と記録①					
第5回：年齢別の発達と保育内容①（グループ発表）		第13回：乳児保育の計画と記録②					
第6回：年齢別の発達と保育内容②（グループ発表）		第14回：乳児保育の今後の課題					
第7回：乳児の抱き方、おんぶの実習		第15回：まとめ・授業内試験					
第8回：調乳・授乳の実習							
テキスト：CHS子育て文化研究所（編）『見る・考える・創りだす 乳児保育』萌文書林 その他担当者が準備する。							
参 考 書：随時、紹介する。							
評価方法・評価基準：期末試験、グループ発表、演習、手作り教材の提出、授業への参加度							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（％）
試験 （中間・期末試験）	○						40
小テスト・ 授業内レポート							評価に加えず
授業態度・ 授業への参加度			○				15
受講者の発表	○		○	○			10
演 習	○		○	○	○		20
その他	○				○		15
履修上の注意：グループ発表や実習を積極的に行い、欠席しないこと。							

授業科目名		2単位 (2－0)	担当教員				
子どもの保健Ⅰ（＝小児保健Ⅰ） (Health Care for InfantsⅠ)			笹良 秀美				
授業の到達目標及びテーマ							
授業の概要							
1. 子どもたちの心身の健康を守り、育てるための科学としての「小児保健学」の知識・技術を習得する。 2. 保育者として、子どものもっている生命力を十分に発揮させ、可能性を伸ばす実践活動をするための保育能力を養う。							
授 業 計 画 （※講義内容については、若干変更になる事があります。）							
第 1 回： 小児保健の意義		第 9 回： 小児の発達・発育（生理機能Ⅰ 体温調節・呼吸・循環・消化吸収）					
第 2 回： 小児の発達・発育 （小児の成長）		第 10 回： 小児の発達・発育（生理機能Ⅱ 排泄・水分代謝・免疫・睡眠）					
第 3 回： 小児の発達・発育（身体の計測・ 身体発育の評価①）		第 11 回： 小児の発達・発育（新生児）					
第 4 回： 小児の発達・発育(身体発育の評価 ②)		第 12 回： 小児の栄養（母乳栄養を中心に）					
第 5 回： 小児の発達・発育（身体発育の評 価③・身体に及ぼす因子）		第 13 回： 小児保健行政					
第 6 回： 小児の発達・発育（小児の発達Ⅰ 脳・感覚器）		第 14 回： グループワーク					
第 7 回： 小児の発達・発育（小児の発達Ⅱ 運動機能・子どもの姿勢）		第 15 回： まとめ					
第 8 回： 小児の発達・発育 （小児の発達Ⅲ 精神発達）							
テキスト： 佐藤益子編著 『子どもの保健Ⅰ』 ななみ書房							
参 考 書：							
評価方法・評価基準： 1. 課題レポート 2. ミニテスト 3. 期末テスト							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度							
その他							
履修上の注意：							

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員					
子どもの保健Ⅰ（＝小児保健Ⅰ） (Health Care for Infants I)		知念 菜穂子					
授業の到達目標及びテーマ							
授業の概要							
1. 子どもたちの心身の健康を守り、育てるための科学としての「小児保健学」の知識・技術を習得する。 2. 保育者として、子どもの持っている生命力を十分に発揮させ、可能性を伸ばす実践活動をするための保育能力を養う。							
授 業 計 画 （※講義内容については、若干変更になる事があります。）							
第 1 回： 子どもの健康と保健の意義	第 9 回： 子どもの発達・発育（生理機能Ⅰ 体温調節・呼吸・循環・消化吸収）						
第 2 回： 子どもの発達・発育 （子どもの成長）	第 10 回： 子どもの発達・発育（生理機能Ⅱ 排泄・水分代謝・免疫・睡眠）						
第 3 回： 子どもの発達・発育 （身体計測・身体発育の評価①）	第 11 回： 子どもの発達・発育 （新生児）						
第 4 回： 子どもの発達・発育 （身体発育の評価②）	第 12 回： 子どもの栄養（母乳栄養を中心に）						
第 5 回： 子どもの発達・発育（身体発育の 評価③・成長に影響を及ぼす因子）	第 13 回： 小児（子どもの）保健行政						
第 6 回： 子どもの発達・発育 （子どもの発達Ⅰ 脳・感覚器）	第 14 回： 子どもの保健Ⅰのまとめ						
第 7 回： 子どもの発達・発育（子どもの発達Ⅱ 運動機能・子どもの姿勢）	第 15 回： まとめと期末試験						
第 8 回： 子どもの発達・発育 （子どもの発達Ⅲ 精神発達）							
テキスト： 「わかりやすい子どもの保健」 西村昂三編著 同文書院							
参 考 書： 「子どもの保健Ⅰ」 佐藤益子 編著 ななみ書房 「保育のための小児保健」 高内正子編著 保育出版社 「小児保健Ⅰ」 田中哲郎編著 建帛社 「保育・教育のための小児保健」 新平鎮博編著 光生館 「保育保健の基礎知識」 巷野悟郎監修 日本小児医事出版社							
評価方法・評価基準： 1. 課題レポート 2. ミニテスト 3. 期末テスト							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
試験 （中間・期末試験）							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度							
その他							
履修上の注意：							

授業科目名		2単位 (0-2)	担当教員					
子どもの食と栄養(=小児栄養演習 (小児栄養)) (Child Nutrition Seminar)			古堅由紀子・下地房子					
授業の到達目標及びテーマ								
知識理解：5 大栄養素を理解する。								
関心意欲：幼児期からの規則正しい食習慣が健康に影響を及ぼすことに関心をもてる。								
思考判断：保育者の立場から、自身の生活習慣を評価し、課題を修正できる。								
態 度：栄養情報が正しい根拠かどうかを選択でき正確な判断で、対応できる。								
授業の概要								
最近の食環境は残念ながら簡便の方向に向いて、手軽に“食”が入手できるようになった。その為に社会全体が食事及び食生活を軽視する傾向になっている。								
食生活は生活習慣の原点であり、特に心身が急速に発達し、人間形成の基盤になる小児期では小児各期に適した食べ物や調理法が重要となる。平成 21 年に「保育所保育指針」が改定され、食育の推進が位置付けられたことで、これまで以上に「食べる力」を豊かに育む支援づくりが期待されている。その為に栄養に関する基本的知識と技術を学び保育者自身が食の重要性を理解する。								
授 業 計 画								
第 1 回： 第 1 章 子どもの健康と食生活		第 9 回： 第 4 章 食育の基本と実践						
第 2 回： 第 2 章 栄養・食に関する基本的知識 ①		第 10 回： 第 5 章 児童福祉施設や家庭における食と栄養						
第 3 回： 第 2 章 栄養・食に関する基本的知識 ②		第 11 回： 第 6 章 食の安全/第 7 章 特別な配慮を要する子どもの食と栄養						
第 4 回： 第 2 章 栄養・食に関する基本的知識 ③		第 12 回： 献立作成の手順・お弁当の献立作成						
第 5 回： 第 3 章 子どもの発育・発達と栄養・食生活①		第 13 回： お弁当調理実習						
第 6 回： 離乳食調理実習		第 14 回： 調理実習の考察/総括						
第 7 回： 第 3 章 子どもの発育・発達と栄養・食生活②		第 15 回： 授業内試験						
第 8 回： 幼児食調理実習								
テキスト： 児玉浩子 「子どもの食と栄養」 中山書店								
参 考 書：『80 キロカロリーガイドブック』（女子栄養大学出版） 『なにをどれだけたべたらよいか』（女子栄養大学出版）								
評価方法・評価基準：・レポート（保育実習中の子供の食に関して）・テスト（ミニテスト、期末テスト） ・授業への参加度（遅刻、欠席、退席）・授業態度（おしゃべり、居眠り）等は、退席してもらいます。								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
試験 (中間・期末試験)								30
小テスト・ 授業内レポート								10
授業態度								20
受講者の発表								評価に加えず
演 習								20
授業への参加度								20
その他								
履修上の注意：								

授業科目名		2単位 (2－0)	担当教員					
家庭支援論(=家族援助論) (Theory of Families)			川西 康裕					
授業の到達目標及びテーマ								
1. 家庭の意義とその機能について理解します。 2. 子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解します。 3. 子育て家庭の支援体制について理解します。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解します。								
授業の概要								
すべての子育て家庭への支援を考える科目ですが、しばらくの間、その中心に、ひとり親家庭への支援をおきたいと思っています。沖縄は日本で一番離婚率が高く、ひとり親家庭の出現率が高いからです。自分たちの結婚がうまくいくかどうかは、誰もがフィフティ・フィフティの確立ですから、将来、支援される側の母親・父親にも、支援する側の保育者にもなるつもりで、本気で勉強します。								
授 業 計 画								
第1回：オリエンテーション		第9回：家族・家庭支援の現場体験レポート						
第2回：家族・家庭とはなんだろう？		第10回：保育所／障害児通所支援						
第3回：現代の家族・家庭がかかえる問題とは？		第11回：地域子育て支援拠点／ファミリーサポートセンター						
第4回：家族・家庭支援はなぜ必要か？		第12回：警察／児童養護施設／障害児入所施設／里親						
第5回：支援を必要とする家族・家庭・子ども①		第13回：家族・家庭を支える方法 (福祉／心理／看護)						
第6回：支援を必要とする家族・家庭・子ども②		第14回：家族・家庭を支える方法（当事者活動）						
第7回：ひとり親に焦点を当てて		第15回：まとめ・授業内試験						
第8回：家族・家庭支援のしくみ								
テキスト：草野いづみ編著『みんなで考える家族・家庭支援論』 同文書院 2013年（変更の可能性あり） 『社会福祉小六法 2015』ミネルヴァ書房、2015年								
評価方法・評価基準：レポート・期末試験・授業への参加度等								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
	レポート 現場体験	○	○	○				50
	期末試験	○	○	○				50
	授業態度・			○	○			+α
	受講者の発表							
	演 習							
	授業への参加度							
	その他（小レポート、 質問）	○	○	○				+α
履修上の注意：子育て家庭支援の現場体験をおこない、レポートを作成します。								

授業科目名	1 単位 (0－2)	担当教員					
健康指導法 (Health Education Methodology)		宮城 圭子					
授業の到達目標及びテーマ 保育内容としての「健康」について理論と実際を理解する。							
授業の概要 1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針「健康」のねらい・内容とその指導の基本を学習する。 2. 幼児期の身体発達や運動発達など特性を踏まえて、実際の子どもの活動の姿や指導のあり方について学習する。 3. 今日の課題である「基本的生活習慣」、「食育」、「進んで戸外で遊ぶ」について家庭との連携のあり方などを学習する。							
授 業 計 画							
第 1 回： 学習計画	第 9 回： 基本的生活習慣指導の展開 (2)						
第 2 回： 子どもと健康	第 10 回： 食育の展開						
第 3 回： 子どもの健康問題の時代推移と課題	第 11 回： 安全習慣・安全管理の指導・展開 (1)						
第 4 回： 心身の健康に関する領域「健康」 (保育所保育指針・幼稚園教育要領)	第 12 回： 安全習慣・安全管理の指導・展開 (2)						
第 5 回： 子どもの身体にかかわる発達	第 13 回： 幼児期の性教育						
第 6 回： 運動遊び	第 14 回： 健康保育の実践と評価の視点・保護者 啓発・健康支援者としての保育者の 役割						
第 7 回： 運動遊びの展開	第 15 回： 定期試験・まとめ						
第 8 回： 基本的生活習慣指導の展開 (1)							
* 都合により内容や順序を変更することがある。							
テキスト： 新・保育内容シリーズ「健康」谷田貝公昭（監修） 一藝社							
参 考 書：							
評価方法・評価基準：レポート、期末テスト							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
試験 (中間・期末試験)	○	○					60
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度				○			30
受講者の発表	○		○				10
演 習							
授業への参加度							
その他							
履修上の注意：							

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員					
人間関係指導法 (Teach.Meth.of Hu.Rel.of Children)		赤嶺 優子					
授業の到達目標及びテーマ							
知 識 理 解：人とのかかわりに関する領域「人間関係」のねらいや内容を理解する。 関 心 意 欲：生活やあそびと領域「人間関係」について関心が持つことができる。 思考判断力：領域「人間関係」目標について解釈することができる。 態 度：実践例を通して、幼児期における人とのかかわりについて学ぶ。							
授業の概要							
幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「人間関係」について理解を深める。 また、幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「人間関係」の目標、ねらい、内容を理解する。 実践例をととして、幼児期における、人とのかかわりについて学ぶ。							
授 業 計 画							
第 1 回： 「人間関係」の意義・乳幼児期の発達と人間関係	第 9 回： 「人間関係」の内容の取り扱い ①						
第 2 回： ビデオ視聴「人間関係のはじまり」	第 10 回： 「人間関係」の内容の取り扱い ②						
第 3 回： 「人間関係」の目標とねらい	第 11 回： 規範意識の芽生え						
第 4 回： 「人間関係」のねらいと内容 ①	第 12 回： 遊びのなかで育つ人とのかかわり						
第 5 回： 「人間関係」のねらいと内容 ②	第 13 回： ・人とのかかわりを育てる保育 ・生きる力を育む保育						
第 6 回： 「人間関係」のねらいと内容 ③	第 14 回： 人とのかかわりを育てる保育者の役割						
第 7 回： 「人間関係」のねらいと内容 ④	第 15 回： まとめ・授業内試験						
第 8 回： ビデオ視聴「葛藤体験について」 討議							
テキスト： 森上史朗・小林紀子・田辺英則編『保育内容「人間関係」』ミネルヴァ書房							
参 考 書： 文部科学省『幼稚園教育要領解説』、厚生労働省『保育所保育指針』							
評価方法・評価基準： レポート、提出物、試験等で総合的に評価する。							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○	○	○	○			60
小テスト・ 授業内レポート							30
授業態度							評価に加えず
受講者の発表							評価に加えず
演 習							評価に加えず
授業への参加度							評価に加えず
その他							10
履修上の注意：							

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員
環境指導法 (Nat. and So. Env. Edu. Meth.)		照屋 建太

### 授業の到達目標及びテーマ

保育活動における環境の意義について学ぶ。人との話し合いを通して他人の考え方を身につけ、理解する。数・量・形の指導方法についても考え、学習する。学生自身、自ら自然に親しむ。沖縄の自然についても考える。

### 授業の概要

この講義では、保育内容領域の「環境」を中心にその意義・内容・指導計画の考え方を学ぶ。環境に興味関心を持ち、関わっていくような環境について意図的、計画的に構成することを学ぶ。また、身のまわりの環境に興味を持ち、疑問について考える力を養う。

### 授 業 計 画

第 1 回：	講義概要説明、グループ分け	第 9 回：	物的環境としての室内環境、 物的環境としての屋外環境
第 2 回：	子どもと環境	第 10 回：	子どもの安全環境、 子どもと情報環境
第 3 回：	保育の基本と領域「環境」の 位置づけ、領域「環境」におけ る指導の観点	第 11 回：	飼育動物とのかかわりと保育、 栽培植物とのかかわりと保育
第 4 回：	グループ活動①（環境観察）	第 12 回：	地域社会とのかかわりと保育
第 5 回：	好奇心・探究心の育み	第 13 回：	子どもとの感性の掘り起こしと 保育者の役割
第 6 回：	科学的認識力の育み、 数・量・形の指導法	第 14 回：	グループ活動②（植物について）
第 7 回：	ビオトープ	第 15 回：	まとめ・授業内試験
第 8 回：	人的環境としての仲間・ 保育者とのかかわり		

講義の始めに身近な生き物の紹介を行います。

テキスト： 嶋崎博嗣ほか『保育士養成のための必須科目シリーズ保育内容（環境）』一藝社  
沖縄生物教育研究会 編『沖縄の生きものたち』新星出版  
その他、必要に応じてプリントを配る。

参 考 書： その他、必要に応じて紹介する。

### 評価方法・評価基準：

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態 度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○					50
小テスト・ 授業内レポート	○	○					5
授業態度			○	○			5
受講者の発表			○		○		5
演 習					○		5
授業への参加度			○	○			30
その他							

履修上の注意：講義の前には、必ずテキストに目を通して下さい。

レポートの提出は、様式と期日を必ず守ること。遅れた場合は受け取らない。

欠席した場合は、講義内容に関するテーマを自ら設定し、レポート(2000字)を提出すること。

授業科目名	1 単位 (0－2)	担当教員					
言葉指導法 (Teach.Meth.of Children's Sp.Dev.)		今 秀子					
授業の到達目標及びテーマ							
知識理解：豊かな言葉を育む保育者の役割について説明できる。							
思考判断：言葉と保育の展開（発達及び幼児理解）について事例を通して指摘できる							
関心意欲：児童文化財の特徴、役割について理解し意欲的に実践に向けて取り組む。							
態 度：自ら感性を磨き言葉による表現力を身につける。							
授業の概要							
幼児の言葉で学んだ乳幼児の言葉の発達、保育所保育指針や幼稚園教育要領を踏襲し、幼児の言葉を豊かにする指導の方法について実技を通して学ぶ。乳幼児理解と言葉は不可分の関係で、保育の実践において「生活の中の言葉と幼児理解」「具体的な場面や状況に応じた援助の在り方」「幼児の言葉を豊かにする児童文化財の活用」など、実技や事例を通して日本語の美しさや言葉の正しさ、豊かさを学んでいく。							
授 業 計 画							
第 1 回：	オリエンテーション・授業内容・方法・実技・課題などについて共通理解	第 9 回：	発達の中の言葉 ①聞くこと、話すこと、思いの伝えあい				
第 2 回：	保育の基本と「領域 言葉」・体験の充実と言葉	第 10 回：	②思考すること、想像すること				
第 3 回：	幼児理解と言葉・生活の中の言葉 言葉を育てる保育者の関わり	第 11 回：	仲間を育てる「ごっこ、劇遊び」理解 ①素材検討、劇作り				
第 4 回：	保育者の言葉表現	第 12 回：	②グループ発表（劇遊び）と検証				
第 5 回：	言葉をゆたかにする児童文化財	第 13 回：	③音声言語から文字言語へ。 生活の中の文字				
第 6 回：	保育者と絵本（科学絵本、生活絵本、物語絵本等） ①本のメッセージを読み取る （グループディスカッション）	第 14 回：	④保育と文字の関わりと実技				
第 7 回：	②保育と人形のかかわり	第 15 回：	まとめとテスト				
第 8 回：	③紙芝居の成り立ちと基礎的理解、使い方・実技						
テキスト： 岡田明『『新訂』子どもと言葉』萌文書林							
参 考 書： 厚生省「保育所保育指針」文部科学省「幼稚園教育要領」その他講義で提示							
評価方法・評価基準：「絵本の読みとりと感想文」「グループ劇企画発表」期末テスト・態度など による総合評価							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (期末試験)	○	○		○			40
課題、実技、演習 への取り組み	○		○	○			30
授業態度	○		○		○		10
受講者の発表			○	○	○		10
演 習			○	○			5
授業への参加度							5
その他							
履修上の注意： 保育者としての自覚に基づき自身が豊かな言葉で話せる様にする							

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員
音楽表現指導法 (Teach.Meth.of Mu.Exp.of Children)		大山 伸子
授業の到達目標及びテーマ：音楽表現の基礎技能を修得し、保育現場で活用しうる音楽の教材研究等に意欲を持って取り組めるようにする。		
授業の概要：身体を通して音楽を感じ、考え、表現するダルクローズの「リトミック教育法」に基づいて、音楽表現に必要な技能とその方法論を学ぶ。また、保育現場で活用しうる、手遊び、歌遊び、身体創作表現など、具体的な教材活動を通して、音楽を発展的、総合的に創意工夫できるようにする。		
授 業 計 画		
第 1 回： オリエンテーション	第 9 回： 3 拍子（簡易楽器や教具を使って）	
第 2 回： リトミック音楽教育について	第 10 回： 教材研究① (手遊び歌、童謡等を題材にして)	
第 3 回： 拍の理解。基礎リズムのリズム打ちとステップ(歩く、走る、スキップ)	第 11 回： 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」における『表現』領域について	
第 4 回： リズムパターンとフレージング	第 12 回： 教材研究② (テーマに即した題材に基づいて)	
第 5 回： リズムパターンとポリリズム	第 13 回： ボディパーカッション	
第 6 回： 幼児曲を題材にした創作表現	第 14 回： 教材研究③ (合奏表現の発表)	
第 7 回： イメージによる身体表現	第 15 回： まとめ	
第 8 回： 拍子感とアナクルーシスについて		
※手遊び、歌遊び、身体創作等は、その都度、課題に即した教材内容で行う。		
テキスト： 『新・幼児の音楽教育』朝日出版社 コピー資料、その他。		
参 考 書： 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」		
評価方法・評価基準：実技テスト及び授業における課題評価		
① グループ課題による評価—幼児曲を創作表現及び、基礎リズムや拍子感を生かした教材研究		
② 個人課題による評価—リズム唱、リズム打ち、リズムステップ、ポリリズムの実技及びレポート課題		
③ 授業への参加度—授業においてグループ発表による評価が数回ある		
④ 授業態度—①～④を総合的に評価する。		
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断
試験 (中間・期末試験)		
小テスト・ 授業内レポート	5	5
授業態度		10
受講者の発表		20
演 習		20
授業への参加度		10
その他		
態度		10
技能・表現		20
その他		
評価割合(%)		
試験 (中間・期末試験)		20
小テスト・ 授業内レポート		10
授業態度		10
受講者の発表		20
演 習		20
授業への参加度		20
その他		
履修上の注意：出席日数は評価に反映されるので怠りなく受講すること。 軽装、運動シューズで受講すること。		

授業科目名		1 単位 (0－2)	担当教員				
造形指導法 (Teach.Me.of Fo. Art for Children)			荻谷 洋介・宮城 潤				
授業の到達目標及びテーマ							
造形指導法においては、まず学生達には小中学、高校の図工や美術のカリキュラム化された表現活動との違い、すなわち未分化で総合的な表現活動であるという点を理解し、その上で自己表現ではなく、子どもの立場に立った表現活動を考える保育・教育者としての端緒となる授業としたい。その為、前半では平面の造形遊びを中心とした演習で学生の固定化した美術意識や苦手意識を払拭することを目的とし、後半で子どもと表現について考え、保育や幼児教育における造形の指導とは何かを実感してもらう事をテーマとする。							
授業の概要							
基礎的事項として子どもの描画の発達段階を理解し、その後、平面を中心とした演習を行う。最後はそれらの体験をもとにテーマを決め、平面作品での制作を行う。また幼児造形教育の歴史や問題について触れる。							
授 業 計 画							
第 1 回：オリエンテーション-造形指導法の目的と内容について -		第 8 回：周囲にあるイメージで遊んでみる（2） -ファッション雑誌を素材としたコラージュによるイメージ再構築 -					
第 2 回：子どもの描画の発達段階について－V. ローウェンフェルドの発達段階を中心として－		第 9 回：子どもの特性を児童文学やアニメーションから考える					
第 3 回：ルース・フェゾン・ショウのフィンガーペインティング -非視覚型の触覚的アプローチやメス・ペインティングの意義 -		第 10 回：子どもの特性を映画から考える -「子ども」という表現 -					
第 4 回：環境を写し取る-フロッタージュとその具体的展開 -		第 11 回：複数の技法を使用した平面表現（1）-数々の平面による造形遊びの紹介とテーマ設定 -					
第 5 回：偶然性の色彩遊び（1） -デカルコマニーとその心理的側面-		第 12 回：複数の技法を使用した平面表現（2） -テーマを設定した平面作品の制作-					
第 6 回：偶然性の色彩遊び（2） -マーブリングとその具体的展開-		第 13 回：幼児の造形教育思想の歴史 -ルソーからチゼック、デュイの思想と DBAE (Discipline Based Art Education)、レジオアプローチの動向について -					
第 7 回：周囲にあるイメージで遊んでみる（1） -ファッション雑誌を素材としたコラージュによるイメージ再構築 -		第 14 回：幼児の表現教育の問題 -法則化運動・色彩描画診断法の問題を中心として -					
		第 15 回：課題とまとめ					
テキスト： テキストは使用せず、毎回の演習時にプリントを作成して配布							
参考書：川俣正他編著『セルフ・エデュケーション時代』（フィルムアート社、2001）、野村知子他編著『幼児の造形』（保育出版社、2002）、山木朝彦他編著『美術鑑賞宣言』（日本文教出版、2003）、Practica ネットワーク編『アートという戦場』（フィルムアート社、2005）、福田隆真・福本謹一・茂木一司編著『新版・美術科教育の基礎知識』（建帛社、2010）、山木朝彦編著『図工・美術教育を学ぶ』（建帛社、2011）							
評価方法・評価基準：作品および提出物							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○						20
授業態度				○			20
受講者の発表		○					20
演 習					○		20
授業への参加度			○				20
その他							100
履修上の注意：演習ですので、各自で準備物が必要です。詳しくはオリエンテーション時に説明します。							

授業科目名		担当教員					
地域子育て支援実習Ⅰ／Ⅱ		1 単位	川西 康裕・大山 伸子・喜舎場 勤子 大城 りえ・赤嶺 優子・照屋 建太				
授業の到達目標及びテーマ 子育て家庭を取り巻く今日の課題を理解し、子育て・子育てを支援する内容及び方法を検討し実施する。							
授業の概要 1・2年次合同の7クラス編成で行い、各クラスを1名の専任教員が担当する。 企画・立案・予算管理さらに対外的な交渉等も含まれるため、学生の主体的参加が強く求められる。 詳細については初回授業時に説明予定である。							
授 業 計 画							
第1回：オリエンテーション		第9回：準備					
第2回：企画		第10回：準備					
第3回：企画		第11回：準備					
第4回：企画		第12回：準備					
第5回：企画		第13回：プログラム実施					
第6回：広報		第14回：反省					
第7回：広報		第15回：まとめ					
第8回：準備							
テキスト：		参 考 書：					
評価方法・評価基準：打ち合わせ中							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度							60
自己評価							40
履修上の注意：							

授業科目名	1 単位	担当教員																																																																								
保育ボランティア体験 (Volunteer in Childcare Program)		山城 真紀子																																																																								
授業の到達目標及びテーマ 本学学生が地域の子どもと触れ合うことにより、座学では学びえない「子どもの生活環境」理解や「遊び」の体験等を深める。本体験は、大学における学びへの動機づけを目的とする。																																																																										
授業の概要 下記のとおり実施する。																																																																										
授 業 計 画  実習期間：①通念とする。（４月～１月まで） ②体験時間数は、３０時間以上とする。  実施方法：①本学に依頼があるボランティア要請と連携して実施する。 ②学生自身がボランティア先を確保して実施する。  対象施設：保育所・幼稚園・児童館・学童クラブ・施設実習配置対象の施設・子ども関連団体等  提 出 物：①保育ボランティア体験報告書  そ の 他：①学生課・学科事務室・担当教員への連絡・報告等を怠らない事。 ②体験時間数（３０時間以上）の確認を行う事。 ③オリエンテーション・中間報告会・全体報告会（後期）へ参加する。																																																																										
テキスト：																																																																										
参 考 書：																																																																										
評価方法・評価基準：																																																																										
<table><tr><td>到達目標等</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>態度</td><td>技能・表現</td><td>その他</td><td>評価割合(%)</td></tr><tr><td>成績評価</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>試験 (中間・期末試験)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>小テスト・ 授業内レポート</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>授業態度</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>演 習</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>80</td></tr><tr><td>授業への参加度</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>その他</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>20</td></tr></table>	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	成績評価								試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート								授業態度								受講者の発表								演 習			○	○			80	授業への参加度								その他						○	20		
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																																			
成績評価																																																																										
試験 (中間・期末試験)																																																																										
小テスト・ 授業内レポート																																																																										
授業態度																																																																										
受講者の発表																																																																										
演 習			○	○			80																																																																			
授業への参加度																																																																										
その他						○	20																																																																			
履修上の注意：事前オリエンテーション・中間報告会・全体報告会への参加は必須である																																																																										

授業科目名	1 単位 (0—2)	担当教員
音楽Ⅰ (Music I)		大山伸子・糸洲のぶ子・神谷智子 古謝麻耶子・津田涼子

授業の到達目標及びテーマ：保育者として必要な音楽の基礎技能（ピアノ・楽典・ソルフェージュ）を習得し、課題曲の終了を目指す。保育現場で音楽の能力が発揮できるよう自己研鑽する。

授業の概要：幼児の音楽的感性を育てるために、保育者として必要な音楽の基礎技能を修得する。ピアノ奏法を主として、楽典やソルフェージュなど基礎的な学習と運動して、ピアノの演奏能力の向上をはかる。授業形態は、一斉指導と個別指導を導入し、「教則本」では運指法、読譜等の初歩的なスキルを獲得しながら、簡単な童謡やマーチが弾けるようにする。また、「音楽Ⅱ」に継続して学習できるように、基本的な音楽理論の理解とピアノ奏法の習熟を目指す（授業は予習型）。

## 授 業 計 画

### 1. 課題

- (1) 楽典 ① 音域 ② 音程 ③ 音階 ④ 調と調号 ⑤ 和音
- (2) ピアノ課題曲 ①基礎 教則本『大学ピアノ教本』№65 程度 必修課題曲  
№ 1、3、4、5、9、11、13、17、21、24、25、27、30、32、33、37、40、43、45、49、  
51、53、56、60、63、65、他任意の曲  
②幼児曲 必修課題曲（とんぼのめがね・思い出のアルバム）  
③マーチ 必修課題曲（かけあしマーチ・手をたたきましょう・ビーマーチ）  
④讃美歌 必修課題曲（誰が作ったの）等  
⑤任意の曲

### 2. 授業計画

第1回：オリエンテーション及びピアノ奏法のウォーミングアップ	第9回：№40～（№40～№65）個人レッスン、及びとんぼのめがね(幼児曲)
第2回：『大学ピアノ教本』 №1～4(№1～37) はグループレッスンで進める)	第10回： №40～（№40～№65）、ビーマーチ（個人により曲の進度が異なる）
第3回： №5、9、11、及びハ長調の音階（1オクターヴ）、調名、1度、5度の和音（Ⅰ、Ⅴ）	第11回： №40～（№40～№65）、思い出のアルバム(幼児曲)（個人により曲の進度が異なる）
第4回： №13、17、21、及び属7度の和音（Ⅴ <sub>7</sub> ）	第12回： №40～（№40～№65）、かけあしマーチ（個人により曲の進度が異なる）
第5回： №24、25、及び4度の和音（Ⅳ）	第13回： №40～（№40～№65）、手をたたきましょう（個人により曲の進度が異なる）
第6回： №27、30、32、及びハ長調の音階、調名（1オクターヴ）、及び1度、4、5、属7度の和音（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅴ <sub>7</sub> ）	第14回： 讃美歌（誰が作ったの）、任意の曲
第7回： №33、37、及びト長調の音階、二長調の音階（1オクターヴ）及び調名	第15回： 『大学ピアノ教本』、童謡、マーチ、讃美歌、任意の曲のまとめ
第8回： №40～（№40～№65）は個人レッスン（学生の習熟度によって課題達成曲が異なる）音階・調名（ハ・ヘ・ト・ニ）、及び和音（Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅴ <sub>7</sub> ）のまとめ	

## テキスト：

- ・ 大学音楽教育研究グループ編著『大学ピアノ教本』教育芸術社 ・ 一宮道子編『ピアノマーチ集』全音楽譜出版社
- ・ 『新・幼児の音楽教育』朝日出版社 ・ コピー資料

評価方法・評価基準：①授業への参加度 ②授業態度 ③実技テスト ④楽典の簡単な筆記テスト。

※上記①～④を総合的に勘案して評価。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価							
試験 (中間・期末試験)					20		20
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度			10	10			20
受講者の発表					10		10
演 習	10				20		30
授業への参加度				20			20
その他							

## 履修上の注意：

毎時間レッスンカード票に自己の受講状況や進度を記録し提出する。毎時間与えられた課題曲を事前レッスン(自己学習)して授業に臨むこと。授業は怠りなく出席し、事前に学習した曲の指導を受ける。日々の練習の積み重ねが最善の上達方法であることを認識する。

授業科目名	1 単位 (0—2)	担当教員
音楽Ⅱ (Music II)		大山伸子・糸洲のぶ子・神谷智子 古謝麻耶子・津田涼子

授業の到達目標及びテーマ：音楽Ⅰで習得した学習成果を踏まえ、保育現場で活用度の高い、幼児曲やマーチ曲がスムーズに演奏できるスキルと表現法を修得する。

授業の概要：「音楽Ⅰ」の基礎的な学習を踏まえ、幼児教育現場で活用度の高い童謡やマーチ等の幼児曲を中心に学習する。『大学ピアノ教本』の学習は、読譜力や奏法の技能がさらに高められ、童謡、マーチの学習は幼稚園、保育所における生活の歌、季節や行事の歌、遊び歌など、保育現場で役立つ幼児曲の弾き歌いが数多くできるようになる。  
授業形態は、習熟度に応じ個別指導を主として、予習型（自己学習）とする。

## 授 業 計 画

### 1. 課題

- (1) 楽典 ①移調譜 ②移調奏 ③和音 ④音階 ⑤調と調号 ⑥その他
- (2) ピアノ課題曲 ①基礎 教則本『大学ピアノ教本』No.66～94 のうち 11 曲程度  
No. 66、67、68、70、71、74、75、79、81、93、94、他 任意  
②幼児曲 必修課題曲(おはようのうた・おかえりのうた・たんじょう日・たなばたさま・はをみがきましょう)  
③マーチ曲 必修課題曲(おお牧場はみどり・こどものマーチ・ブルーセス マーチ)  
④讃美歌(お星がひかる)・任意の曲等

### 2. 授業計画

第 1 回：	オリエンテーション（個別レッスンなので習熟度によって進度が異なる）
第 2 回：	『大学ピアノ教本』No.66～94 (進度による課題曲)
第 3 回：	No.67、幼児曲「おはようのうた」（幼児曲は順不同・達成度別の進度）
第 4 回：	No.68、「おかえりのうた」
第 5 回：	No.70、「たんじょう日」
第 6 回：	No.71、「たなばたさま」
第 7 回：	No.74、「はをみがきましょう」
第 8 回：	No.75、マーチ「おお牧場はみどり」（マーチは順不同・達成度別の進度）

第 9 回：	No.79、「こどものマーチ」
第 10 回：	No.81、「ブルーセスマーチ」
第 11 回：	No.93、賛美歌「お星がひかる」
第 12 回：	No.94、任意の曲（幼児曲・マーチ）
第 13 回：	任意の曲（幼児曲・マーチ）
第 14 回：	任意の曲（幼児曲・マーチ）
第 15 回：	任意の曲、(大学ピアノ教本・幼児曲・マーチ)、及び全体のまとめ
※『大学ピアノ教本』は目安であり、進度は習熟度別。	

テキスト：・学音楽教育研究グループ編著『大学ピアノ教本』教育芸術社 ・一宮道子編『ピアノマーチ』教育芸術社  
・『新・幼児の音楽教育』朝日出版社 ・コピー資料

評価方法・評価基準：①授業への参加度 ②授業態度 ③ピアノ実技テスト、①～③を総合的に評価する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)					20		20
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度			10	10			20
受講者の発表					10		10
演 習	10				20		30
授業への参加度				20			20
その他							

### 履修上の注意：

毎時間、レッスンカード票に自己の授業状況や進度を記録し提出する  
毎時間与えられた課題曲を、事前レッスン（自己学習）して、授業に臨むこと  
授業は怠りなく出席し、事前に学習した曲の指導を受ける。日々の練習の積み重ねが上達方法であることを認識する

授業科目名		1 単位 (0-2)	担当教員				
図画工作 I (Art and Craft Education I)			荻谷 洋介				
授業の到達目標及びテーマ							
図画工作 I では素材体験を数多く行う事を目的とする。したがって通常の素材から日用品食材まで子どもを取り巻く様々なマテリアルを演習で使用し、「子どもの表現」という概念の幅を広げていく。また同時に社会における子どもの状況を表現された映像や実際の玩具、印刷物などから子どもを取り巻く表現の問題、および我々が使用する素材の選択や理解にまで幅を広げていく。							
授業の概要							
子どもの表現を理解し、指導する上で必要な基本的感性や表現力を、様々な造形作品の制作と鑑賞を通じて身につける。特にこの図画工作 I では保育士・幼稚園教諭としての実技的スキルの向上を目的とし、具体的な図画工作の活動案の提供を中心とする。							
授 業 計 画							
第 1 回：	オリエンテーション-図画工作 I の目的と内容について -	第 9 回：	幼児の特性（みたとてと行為）に着目した表現活動				
第 2 回：	表現の発達段階（復習）にそった造形あそびの実習における展開	第 10 回：	実習時の活動案の検討と保育指導案の具体例				
第 3 回：	紙を使用した表現活動とその展開	第 11 回：	グローバリゼーションと子どもと表現 子どもと映像表現 -				
第 4 回：	水や氷、お湯（物質変化による造形）による表現活動とその展開	第 12 回：	グローバリゼーションと子どもと表現 「子ども」という表現 -				
第 5 回：	食材を使用した表現活動とその展開	第 13 回：	グローバリゼーションと数々の表現素材をめぐる問題 -持続可能な社会における表現教育での材料選択 -				
第 6 回：	動きの観点からの簡単な玩具作り	第 14 回：	課題発表-現代社会、子ども、表現という三つの視点 -				
第 7 回：	風の観点からの簡単な玩具作り	第 15 回：	課題とまとめ				
第 8 回：	色の観点からの簡単な玩具作り						
テキスト： テキストは使用せず、毎回の演習時にプリントを作成して配布							
参 考 書：川俣正他編著『セルフ・エデュケーション時代』（フィルムアート社、2001）、野村知子他編著『幼児の造形』（保育出版社、2002）、山木朝彦他編著『美術鑑賞宣言』（日本文教出版、2003）、Practica ネットワーク編『アートという戦場』（フィルムアート社、2005）、福田隆真・福本謹一・茂木一司編著『新版・美術科教育の基礎知識』（建帛社、2010）、山木朝彦編著『図工・美術教育を学ぶ』（建帛社、2011）							
評価方法・評価基準：作品および提出物							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○						20
授業態度				○			20
受講者の発表		○					20
演 習					○		20
授業への参加度			○				20
その他							100
履修上の注意：							

授業科目名		1 単位 (0-2)	担当教員				
図画工作Ⅱ (Art and Craft Education II)							
授業の到達目標及びテーマ 子どもの特性の一つである「みたて」のイマジナリーな側面を理解し、それを日常と結びつけた立体制作を行う。さらに共同での活動の体験をし、最終的には演習を通して「表現」そのものの意味について体験的に理解する。							
授業の概要 図画工作Ⅰの基礎的な活動をふまえ、この図画工作Ⅱでは、より深く子どもの表現を理解するために、様々な造形作品の制作と鑑賞を行い、保育者として必要な実践力と視野を身につける。具体的には現場でのグループ活動や年間計画をイメージした造形活動を行い、さらに根源的に子どもと表現について考える表現活動を行う。							
授 業 計 画							
第 1 回：オリエンテーション -図画工作Ⅱの目的と内容について -		第 9 回：行事と壁面構成 -行事の視覚伝達（クリスマスの壁面作り） -					
第 2 回：雑材の「みたて」による立体表現（1）-雑材の収集とその造形性-		第 10 回：クリスマスのカード制作（1）					
第 3 回：雑材の「みたて」による立体表現（2）-制作活動-		第 11 回：クリスマスのカード制作（2）					
第 4 回：雑材の「みたて」による立体表現（3）-制作活動および提出-		第 12 回：日常を「異化」する表現活動（1） -異化とはなにか-					
第 5 回：共同制作（1）-その意義と特性-		第 13 回：日常を「異化」する表現活動（2） -グループおよび個人発表-					
第 6 回：共同制作（2）-グループで長い紙に描く実践 -		第 14 回：日常を「異化」する表現活動（3） -発表映像鑑賞-					
第 7 回：共同制作（3）-グループで空間を飾る実践 -		第 15 回：課題とまとめ					
第 8 回：色彩と壁面構成 -線と色と感情-							
テキスト： テキストは使用せず、毎回の演習時にプリントを作成して配布							
参 考 書： 川俣正他編著『セルフ・エデュケーション時代』（フィルムアート社、2001）、野村知子他編著『幼児の造形』（保育出版社、2002）、山木朝彦他編著『美術鑑賞宣言』（日本文教出版、2003）、Practica ネットワーク編『アートという戦場』（フィルムアート社、2005）、福田隆真・福本謹一・茂木一司編著『新版・美術科教育の基礎知識』（建帛社、2010）、山木朝彦編著『図工・美術教育を学ぶ』（建帛社、2011）							
評価方法・評価基準：作品および提出物							
成績評価 到達目標等 試験 (中間・期末試験)	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
小テスト・ 授業内レポート	○						20
授業態度				○			20
受講者の発表		○					20
演 習					○		20
授業への参加度			○				20
その他							100
履修上の注意：演習ですので、各自で準備物が必要です。詳しくはオリエンテーション時に説明します							

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員					
幼児体育 I (Gymnastics for Children I)		山城 眞紀子					
授業の到達目標及びテーマ 幼児期にふさわしい運動遊びの実際を通して、子ども理解を図り、保育者の役割を学ぶ。							
授業の概要 指導案を作成し模擬保育の方法を中心に、運動遊びの教材や環境の構成、展開の方法、指導上の留意点を学習する。							
授 業 計 画							
第 1 回： 学習計画・幼児期の運動特性、指導案作成と分担	第 9 回： ラジオ体操、はとぽっぽ体操、他						
第 2 回： ・保育者に必要な力「体力」 ・集団行動 ・ゲーム	第 10 回： ボール遊び						
第 3 回： フォークダンス	第 11 回： 縄遊び						
第 4 回： ゲーム（１）	第 12 回： かけっこ遊び、とびっこ遊び						
第 5 回： ゲーム（２）	第 13 回： 大型遊具遊び（１）（マット、跳び箱、平均台、鉄棒、巧技台）						
第 6 回： 体操遊び、かくらべ遊び、じゃれつき遊び（１）	第 14 回： 大型遊具遊び（２）（マット、跳び箱、平均台、鉄棒、巧技台）						
第 7 回： 身近な素材で運動遊び	第 15 回： まとめ						
第 8 回： ストーリーゲーム （お話から運動遊びへ）	※都合により内容や順序を変更することがある。						
テキスト： 特に指定しない 随時資料を配付、VTR							
参 考 書： 特に指定しない							
評価方法・評価基準： 授業への参加度、課題発表、実技テスト、レポートなどを総合して行う。							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○						20
授業態度・ 授業への参加度			○	○	○		50
受講者の発表	○	○	○		○		30
演 習							
その他							
履修上の注意： 授業内容にかかる準備・片付け、服装、安全に留意すること。							

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員						
幼児体育Ⅱ (Gymnastics for Children II)		山城 眞紀子						
授業の到達目標及びテーマ								
保育者としての基本的運動技能の習得を目指しつつ、遊具の特性における補助法や安全、そして戸外で積極的に遊ぶ意義や方法を理解する。 心や体で感じたことを自分の感情の趣くままに体で動いて表現を行う子どもたちの身体表現についての指導の内容や方法について理解する。								
授業の概要								
大型移動遊具の基礎技能の習得、補助法や安全について学ぶ。 戸外の環境を活用する運動遊びについて実際に企画し、展開する。 いろいろな動きの体験、歌やリズムによって動いたり、作品のまとめ方など基礎的な知識や技能を習得する。								
授 業 計 画								
第 1 回： 学習計画、実習を通しての幼児の運動と環境 保育者に必要な力「表現力」	第 9 回： 伝承遊びとトランポリン（2）							
第 2 回： 課題研究① ジャンケン遊び	第 10 回： 沖縄のリズムと動きで遊ぼう							
第 3 回： 課題研究② 縄あそび	第 11 回： 身体表現で遊ぼう（1）							
第 4 回： 課題研究③ かけっこ・とびっこ	第 12 回： 身体表現で遊ぼう（2）							
第 5 回： 歩け歩け園外保育の企画と展開	第 13 回： 作品づくり（1）							
第 6 回： 公園でミニ運動会の企画と展開	第 14 回： 作品づくり（2）							
第 7 回： わらべ歌で遊ぼう	第 15 回： 作品づくり（3）・まとめ							
第 8 回： 伝承遊びとトランポリン（1）								
* 都合により、内容や順序を変更することがある。								
テキスト： 特に指定しない。 随時資料配布								
参 考 書： 特に指定しない。								
評価方法・評価基準： 授業への参加度、発表、実技テスト、レポートなどを総合して行う。								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
試験 (中間・期末試験)								
小テスト・ 授業内レポート		○						20
授業態度・ 授業への参加度				○	○	○		50
受講者の発表						○		
演 習		○		○		○		30
その他								
履修上の注意： 授業内容にかかる準備・片付け、服装、安全に留意すること。								

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員					
幼児の生活 (Life Skill)		島袋 浩子					
授業の到達目標及びテーマ							
<div>『私達の暮らしと保育』</div> <div>・ 社会人として、保育者としてのマナーを身につける。</div> <div>・ 子どもの生活習慣の自立について学ぶ。</div> <div>・ 知識理解： 幼児期の基本的な生活習慣について理解する。</div> <div>・ 関心意欲： 乳幼児期の発達と生活技能について関心をもつ。</div> <div>・ 態 度： 自らの生活を振り返り、自身の資質を高める。</div>							
授業の概要							
子ども自身が、人間として生きる力の基礎を育むための指導者としての在り方を学ぶ。 社会人としてのマナー・保育者としての技能・子どもの生活技能などについて理論や実技等事例を通して学んでいく。							
授 業 計 画							
第 1 回： 授業概要説明	第 9 回： 保育者としての技能 ② はさみや箸の持ち方等						
第 2 回： 乳幼児期の子どもの生活「基本的生活習慣」 ① 食事の習慣	第 10 回： ③ 園だより・学級だよりについて						
第 3 回： ② 睡眠の習慣	第 11 回： ④ 園だより・学級だよりの作成						
第 4 回： ③ 排泄の習慣	第 12 回： ⑤ 折り紙の魅力について 折り込みチラシのリサイクル						
第 5 回： ④ 着脱衣の習慣	第 13 回： ⑥ 牛乳パックのリサイクル						
第 6 回： ⑤ 清潔の習慣	第 14 回： ⑦ 伝承遊び						
第 7 回： 乳幼児期の子どもの生活 「社会的生活習慣」	第 15 回： まとめ・授業内試験						
第 8 回： 保育者としての技能 ① 常識マナー・保育現場での心構え							
テキスト： 谷田貝公昭 監修『6 歳までのしつけと子どもの自立』合同出版							
参 考 書： 厚生省「保育所保育指針」文部科学省「幼稚園教育要領」 子どもの生活科学研究会 編『子どもとマスターする 49 の生活技術』合同出版 子どもの生活科学研究会 編『子どもとマスターする 49 の生活技術 2』合同出版 子どもの生活科学研究会 編『子どもとマスターする 49 の生活技術 3』合同出版 その他、必要に応じて紹介する。							
評価方法・評価基準：							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○		○			4 0
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○	○	○		3 0
授業態度・ 授業への参加度	○		○	○	○		1 5
受講者の発表	○		○	○			5
演 習			○				1 0
その他							
履修上の注意：課題の提出は、様式と期限を守ること。							

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員
飼育栽培 (Feeding and Growing)		照屋 建太

授業の到達目標及びテーマ

この講義では飼育栽培を行うことによって自然と親しみ、生き物の「命」の大切さ、不思議さについて学ぶ。保育活動の中で日常化されている飼育栽培の基本について学び、実践し習得する。また、生き物の「命」に対する責任感を持つ。

授業の概要

“生命”への慈しみを育てる保育が強調される中、保育者は小動物・植物への関わりが十分とは言えない。それに付け加え現代社会の家族形態は核家族化し、アパートなど集合住宅が増え自宅で生き物の飼育栽培が困難な状況である場合が多い。また、生き物嫌いや飼育の手間がかかるという意見が増えており、子どもたちは生物の命の尊さを知る機会が少なくなっている。そこで、実際に生き物の飼育活動を行う。

授 業 計 画	
第 1 回： 講義概要説明 グループ分け	第 9 回： 飼育栽培実習⑤
第 2 回： 基礎学習①（植物）、 レポートの書き方	第 10 回： 飼育栽培実習⑥
第 3 回： 飼育栽培実習①	第 11 回： 基礎学習④（土壌）
第 4 回： 飼育栽培実習②	第 12 回： 飼育栽培実習⑦
第 5 回： 基礎学習②（動物）	第 13 回： レポート作成①
第 6 回： 飼育栽培実習③	第 14 回： レポート作成②
第 7 回： 飼育栽培実習④	第 15 回： まとめ・授業内試験
第 8 回： 基礎学習③（気象）	

テキスト：沖縄生物教育研究会 編『沖縄の生きものたち』新星出版  
その他、必要に応じてプリントを配る。

参 考 書：岡田 要 監修『完全図解 生きものの飼ひ方全書』東陽出版  
有沢 重雄『飼育栽培図鑑 はじめて育てる・自分で育てる』福音館書店  
その他、必要に応じて紹介する。

評価方法・評価基準：

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○					10
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○		○		15
授業態度			○	○			10
受講者の発表			○	○	○		15
演 習							
授業への参加度			○	○			30
その他				○			20

履修上の注意：講義には汚れても良い服装、動きやすい服装で参加すること。  
まとめの提出は、様式と期限を必ず守ること。遅れた場合は受け取らない。  
夏期休暇や冬期休暇、春期休暇中も責任を持って生き物の世話をすること。  
欠席した場合は、講義内容に関するテーマを自ら設定し、レポート(2000 字)を提出すること。

授業科目名		2単位 (0－2)	担当教員				
幼児の言葉 (Methods of Language Development)			山盛 淳子				
授業の到達目標及びテーマ							
知識理解：乳幼児がことばを獲得していく過程について説明できる 保育者の基本的な姿勢や援助のあり方について事例を踏まえて説明できる。							
思考判断：言葉を豊かにする教材を選択できる							
関心意欲：ことばの機能を理解しことばを育む環境について関心を持つ。							
態 度：豊かなことばの感性と表現力を身につける							
授業の概要：							
乳幼児期は言葉獲得の重要な時期であり、ことばは生活の中で獲得される為幼児の生活を知り、発達の筋道を学ぶことは幼児の発達を保障する保育者として最も肝要である。本授業では「ことばの発達過程」「生活の中のことば」「思いの伝えあい（互いの関係性）」等を軸に乳幼児のことばを育てる環境やことばの育ちを助ける保育者の関わりについて理論学習や実践的な基礎技術について学ぶ。							
授 業 計 画							
第 1 回：オリエンテーション		第 9 回：言葉を育てる人的環境					
第 2 回：言葉をめぐるワークショップ		第 10 回：幼稚園保育園での言葉の生活					
第 3 回：乳児期に育む言葉発達の基礎		第 11 回：言葉での関わりに配慮を要する子供達					
第 4 回：幼稚園教育要領・保育所保育指針領域「言葉」		第 12 回：言葉をめぐる相談と対応					
第 5 回：乳幼児の発達と言葉		第 13 回：言葉を育てる児童文化と地域文化①					
第 6 回：言葉の前の言葉		第 14 回：言葉を育てる児童文化と地域文化②					
第 7 回：言葉の芽生え		第 15 回 まとめ					
第 8 回：話し言葉から書き言葉へ							
テキスト：保育内容言葉 小田豊著 北大路書房 ・幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説書							
評価方法・評価基準：課題提出 絵本カード提出 期末テスト・授業への参加度、態度による総合評価							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (期末試験)	○	○		○			30
課題、実技、演習への 取り組み	○		○	○			30
授業態度	○		○	○			15
受講者の発表			○	○			10
演 習	○		○	○			10
授業への参加度							5
その他							
履修上の注意：提出物は期限厳守、実技は必須・保育科としての自覚に基づき自身言葉をが豊かに話せる様に努める ：絵本カード提出必須授業期間内 ：素話又は指人形作成発表							

授業科目名		2単位 (2－0)	担当教員				
保育者論 (Nursery Teachers)			赤嶺 優子				
授業の到達目標及びテーマ							
知識理解：保育者の役割と倫理、制度的位置づけについて理解をする。							
関心意欲：保育者の専門職的成長について関心や意欲を示し、自己の成長に繋げる。							
思考判断：保育者の専門性について考察し、理解する。							
態 度：保育者の協働について理解する。							
授業の概要							
保育者の役割や倫理、制度的位置づけについて理解する。保育の知識を深め、保育者の役割、意義、省察、専門性について理解する。保育・教育問題、保育者の協働についても関心を持ち、保育者の専門職的成長について深める。							
授 業 計 画							
第 1 回： 保育者になるということ		第 9 回： 保育の現状と課題					
第 2 回： 保育者の役割と倫理		第 10 回： 保育・教育問題					
第 3 回： 保育者の制度的位置づけ		第 11 回： 討議：「保育者の専門職的成長について」					
第 4 回： 保育者の専門性と省察		第 12 回： 討議：保育者の役割と専門性（ビデオ視聴）					
第 5 回： 特別講義		第 13 回： 保育者の役割と専門性(協同研究) ①					
第 6 回： 保育の省察		第 14 回： 保育者の役割と専門性(協同研究) ②					
第 7 回： 保育課程・教育課程による保育の展開と自己評価		第 15 回： まとめ・授業内試験					
第 8 回： 保育者の協働							
テキスト： 『保育者論』							
参 考 書： 文部科学省『幼稚園教育要領解説』2008 年 全国社会福祉協議会『新保育所保育指針を読む[解説・資料・実践]2008 年							
評価方法・評価基準： 授業への参加度・課題・提出物・討議・発表等を総合的に評価。							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
試験 (中間・期末試験)	○	○	○				6 0
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○				3 0
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度				○			
その他							1 0
履修上の注意： 特別講義は、日程の変更もあり得る							

授業科目名		2単位 (2－0)	担当教員					
保育課程総論 (Curriculum for Child Care)			赤嶺 優子					
授業の到達目標及びテーマ								
知 識 理 解：保育課程・教育課程の意義と役割を理解し、理論と実践の関係を深める。								
保育課程・教育課程の編成と指導計画の作成について理解する。								
関 心 意 欲：保育内容と質の向上に資する保育の計画と評価について理解する。								
思考判断：幼児の主体性に基づいた保育内容、環境構成、展開、指導案を作成する。								
態 度：計画・実践・省察・評価・改善等の課程の全体構造を能動的にとらえて理解する。								
授業の概要								
保育課程、教育課程、保育計画の意義及び編成の方法について知る。幼稚園や保育所（園）の保育内容などの保育の基本を理解した上で、保育実践における指導日案、細案などの立案の仕方を身につける。								
授 業 計 画								
第 1 回：オリエンテーション・保育の基本・他		第 9 回：保育の反省と自己評価						
第 2 回：保育課程・教育課程と指導計画の意義		第 10 回：幼稚園教育の基本と教育課程の編成						
第 3 回：保育所指針と幼稚園教育要領		第 11 回：保育計画の作成（ビデオ視聴：細案）						
第 4 回：保育課程と指導計画の編成方法		第 12 回：保育計画作成の実践「細案」①						
第 5 回：保育計画の作成（ビデオ視聴）		第 13 回：保育計画作成の実践「細案」②						
第 6 回：領域と保育内容、環境構成		第 14 回：計画、実践、省察、評価、改善の過程の循環による保育の質の向上						
第 7 回：保育計画の作成と留意点		第 15 回：まとめ・授業内						
第 8 回：保育の省察と記録								
テキスト：太田 悦生 編 2010『新・保育内容総論』第 2 版（株）みらい								
参 考 書：文部科学省『幼稚園教育要領解説』2008 年 全国社会福祉協議会『新保育所保育方針を読む〔解説・資料・実践〕』2008 年								
評価方法・評価基準：課題・日案/細案作成・提出物・発表・試験等で総合的に評価する。								
到達目標等		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)		○	○		○	○		6 0
小テスト・ 授業内レポート								3 0
授業態度								
受講者の発表								1 0
演 習								
授業への参加度								
その他								
履修上の注意：								

授業科目名		2単位 (0－2)	担当教員				
保育指導法ゼミ (Introduction to teaching methods in ECCE)			赤嶺優子・糸洲理子 松田恵子・山城いと子				
授業の到達目標及びテーマ							
知識理解：領域と保育内容について理解する。保育の全体構造、総合的に指導する視点を養う。 教材研究し、技能発表をする。							
思考判断：保育所（園）を見学し、保育の1日の流れを記録する。							
関心意欲：子どもの遊びと生活に関心をもつ。							
態 度：子どもとのかかわり方を身につけ、保育者の役割について学ぶ。							
授業の概要							
保育所（園）や幼稚園の1日を把握する。保育者として子どもの発達を理解し、遊びや生活を通して、総合的に指導することを学ぶ。また、保育課程・教育課程と指導計画との関連性を理解する。保育実践やビデオ視聴等通して、保育所（園）と幼稚園、保育内容や保育者の役割、について学ぶ。							
授 業 計 画							
第1回：講義内容説明・他		第9回：子どもを見る視点 ～発達と評価②					
第2回：領域と保育内容・保育課程と教育課程		第10回：保育者としての子どもとの 関わり方②					
第3回：保育所（園）のVTR視聴と討議		第11回：保育記録の視点 （保育環境、保育指導計画の長期・短期）					
第4回：子どもの遊びと生活の捉え方①		第12回：保育所（園）見学					
第5回：子どもを見る視点 ～発達と評価①		第13回：遊びを通しての総合的な指導に ついて					
第6回：保育者としての子どもとの 関わり方①		第14回：保育者の役割					
第7回：幼稚園のVTR視聴と討議		第15回：まとめ・授業内試験					
第8回：子どもの遊びと生活の捉え方②							
テキスト： 太田悦生編 『保育内容総論』 みらい							
参 考 書： 文部科学省『幼稚園教育要領』・厚生労働省『保育所保育指針』							
評価方法・評価基準：テスト、課題提出、保育実践発表、クラス課題等の総合評価							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○	○					60
小テスト・ 授業内レポート			○	○	○		20
授業態度							
受講者の発表							10
演 習							
授業への参加度				○			
その他			○	○	○		10
履修上の注意：							

授業科目名		2単位 (0－2)	担当教員				
保育カウンセリング (Counseling for Child Care)			大城 りえ・玉城 弘美				
授業の到達目標及びテーマ 保育カウンセリング（保育相談支援）の意義と方法論について理解する。さらに保育所等における保護者支援の実際について理解する。							
授業の概要 保育カウンセリング（保育相談支援）の意義を理解し、カウンセリング方法を学ぶ。 さらに、演習を通して保育所や幼稚園等での子ども・保護者支援の実際について学ぶ。							
授 業 計 画							
第 1 回：	オリエンテーション、保育カウンセリング（保育相談支援）とは	第 9 回：	保育所・幼稚園等での具体的な事例⑤				
第 2 回：	保育カウンセリング（保育相談支援）の意義	第 10 回：	虐待への対応				
第 3 回：	保育カウンセリング（保育相談支援）の原則	第 11 回：	障がいを持つ子どもの保護者とのかわり①				
第 4 回：	面接技法について	第 12 回：	障がいを持つ子どもの保護者とのかわり②				
第 5 回：	保育所・幼稚園等での具体的な事例①	第 13 回：	連絡帳の書き方				
第 6 回：	保育所・幼稚園等での具体的な事例②	第 14 回：	関係機関等との連携と協力				
第 7 回：	保育所・幼稚園等での具体的な事例③	第 15 回：	テスト、まとめ				
第 8 回：	保育所・幼稚園等での具体的な事例④						
テキスト： 必要な書類は、担当者が準備する。							
参 考 書：							
評価方法・評価基準： 期末試験、授業内レポート（毎時間提出）、演習、発表、授業への参加度							
成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（％）
試験 （中間・期末試験）	○		○				4 0
小テスト・ 授業内レポート			○				1 5
授業態度・ 授業への参加度			○	○			1 5
受講者の発表							評価に加えず
演 習	○	○	○				3 0
その他							
履修上の注意： 授業内レポートとして、授業のまとめと感想を毎時間提出してください。							

授業科目名		2単位 (0-2)	担当教員				
保育・教職実践演習（幼稚園）			山城 真紀子・川西 康裕・大山 伸子 ・喜舎場 勤子・大城 りえ ・赤嶺 優子・照屋 建太				
授業の到達目標及びテーマ							
自己の課題を認識し、保育者として求められる最小限必要な資質能力を形成する。							
授業の概要							
これまでの講義・演習、さらに実習を通して得た知識技能を統合し、実践力のある保育者としての資質形成を目的とする。							
保育者として必要な①使命感・責任感・教育的愛情、②社会性や対人関係能力、③幼児理解や学級経営、④保育内容の指導力などを、演習（ロールプレーイング、フィールドワーク、模擬保育）を通して、具体的に学んでいく。							
授 業 計 画							
	内 容	担 当					
第 1 回：	イントロダクション・これまでの学修の振り返りについての講義・グループ討論	全教員					
第 2 回：	飼育栽培活動のポイントとその展開	照屋建太					
第 3 回：	幼稚園現場における保育者の資質と実践力および造形表現教育	吉村壮明					
第 4 回：	幼児の豊かな表現力を育てる音楽指導法（演習・グループ討議）	大山伸子					
第 5 回：	健やかな成長をめぐる課題と指導法（グループ討議）	山城真紀子					
第 6 回：	フィールドワークの視点	全教員					
第 7 回：	幼稚園現場のフィールドワーク①	全教員					
第 8 回：	幼稚園現場のフィールドワーク②	全教員					
第 9 回：	事例研究会①	全教員					
第 10 回：	事例研究会②	全教員					
第 11 回：	幼児理解や学級経営についての講義・グループ討論	赤嶺優子					
第 12 回：	幼児理解とカウンセリングマインド（ロールプレーイング）	大城りえ					
第 13 回：	保育者の資質向上ならびに組織開発のためのソーシャルグループワーク演習	川西康裕					
第 14 回：	保育者の使命感・責任感・教育的愛情	喜舎場勤子					
第 15 回：	資質能力の確認、まとめ	全教員					
テキスト： 授業内容に応じて資料を配布		参 考 書： 適宜に提供					
評価方法・評価基準： レポート課題・フィールドワークの資料作成・授業への参加度・学習態度							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							80 (10×8)
自己評価表							10
事例研究資料作成							10
事例研究発表および事後 の学び							10
保育教職実践演習の まとめ							10
その他							
履修上の注意：							

授業科目名	5単位	担当教員
教育実習（幼稚園） (Pract. Teaching in Kindergarten)		喜舎場 勤子
授業の到達目標及びテーマ 保育に必要な知識や実践技術を身につける。 教育実習を通して、幼児期の特性や環境を通して行なう保育について理解を深める。 幼児期にふさわしい生活の展開や遊びを通しての総合的な指導、教師の役割等について、教育実習を通して学びを深め、教師としての資質を身につける。		
授業の概要 本学で学んだ専門的知識や技術を教育実習で実践することによって、教師となる自覚を得る。		
授 業 計 画 ・実習園でのオリエンテーション ・実習園の方針についての一般的理解 ・幼児理解、人的・物的環境等の理解 ・保育内容の全般的理解 ・幼児との関わり ・保育内容と保育形態の理解 ・教育実習の段階 1)見学・観察実習 2)参加・部分実習 3)部分・責任実習 ・実習園の諸行事への参加 ・実習日誌はその日に記入し翌朝提出 ・指導案は、1週間前に提出  1.実習指導に出席し、教育実習の一環として受講（実習訪問報告書・調査書・誓約書・他・提出物含む） 2.実習の中間協議は、実習期間中の土曜日に、本学にて実施、実習の一環として参加（出席カード提出） 3.実習終了後の反省会に参加（出席カード提出） 4.実習日誌は実習終了後、本人が園から受け取り本学へ提出 5.実習終了後は、実習レポートを本学に提出 6.幼稚園実習終了後の評価表（幼稚園教育実習）自己評価の提出		
テキスト： 幼稚園教育要領解説書、その他必要な資料は担当者が準備する。		
参 考 書：		
評価方法・評価基準： 実習園の評価、日誌、実習レポート、実習指導の出席状況、提出物等を総合して評価する。		
成績評価 到達目標等 試験 (中間・期末試験) 小テスト・ 授業内レポート 授業態度 受講者の発表 演 習 授業への参加度 その他（提出物含む）	知識・理解 思考・判断 関心・意欲 態度 技能・表現 その他 評価割合(%)	○ ○<

授業科目名	2単位 (0－2)	担当教員					
視聴覚教育 (Audio Visual Education)		赤嶺 優子					
授業の到達目標及びテーマ							
視聴覚教材について理解を深め、教材作りをする。教育・保育現場で自信を持って子どもに接し場面に応じた教材の活用ができるようにする。							
授業の概要							
保育における「視聴覚教材」の意義について理解する。幼児の豊かな感性を育くむための教材をいくつか取りあげ製作をとおして保育技術を習得する。また作品発表を経験することで表現者としての素養を身につける。							
授 業 計 画							
第 1 回：	ペープサート・パネルシアター・エプロンシアターについて	第 9 回：	大型教材 軍手人形&絵本&紙芝居・他				
第 2 回：	フラット教材 エプロンシアター・ペープサート・他	第 10 回：	大型教材 軍手人形&絵本&紙芝居・他				
第 3 回：	フラット教材 エプロンシアター・ペープサート・他	第 11 回：	大型教材 軍手人形&絵本&紙芝居・他				
第 4 回：	* 作品発表	第 12 回：	大型教材 軍手人形&絵本&紙芝居・他				
第 5 回：	劇化教材 パネルシアター&エプロンシアター・他	第 13 回：	* 作品発表				
第 6 回：	劇化教材 パネルシアター&エプロンシアター・他	第 14 回：	ディスプレイ教材・他				
第 7 回：	劇化教材 パネルシアター&エプロンシアター・他	第 15 回：	まとめと作品提出・授業内				
第 8 回：	* 作品発表						
テキスト： 必要に応じてプリントを配布する。							
参 考 書：							
評価方法・評価基準：							
授業への参加度・受講態度・提出物・製作作品(ディスプレイを含む 4 点)課題発表等を総合的に評価する。							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)			○	○	○		6 0
小テスト・授業内レポート							2 0
授業態度							0
受講者の発表							2 0
演 習							0
授業への参加度							0
その他							
履修上の注意：							

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員					
視聴覚教育 (Audio Visual Education)		真栄城 かの子					
授業の到達目標及びテーマ							
視聴覚教材について理解を深め、自ら表現できるようにする。教育・保育現場で自信を持って子どもに接し場面に応じた教材の活用ができるようにする。							
授業の概要							
保育における「視聴覚教材」の意義について理解する。 幼児の豊かな感性を育くむための教材をいくつか取りあげ、製作をとおして保育技術を習得する。 また実践発表を経験することで表現者としての素養を身につける。							
授 業 計 画							
第 1 回：	ペープサート・パネルシアター・ エプロンシアターについて	第 9 回：	劇化教材 パネルシアター&エプロンシアター ・他 年長向け作品③				
第 2 回：	フラット教材 ペープサート・他 年少向け作品①	第 10 回：	劇化教材 パネルシアター&エプロンシアター ・他 年長向け作品③				
第 3 回：	フラット教材 ペープサート・他 年少向け作品①	第 11 回：	劇化教材 パネルシアター&エプロンシアター ・他 年長向け作品③				
第 4 回：	* 作品実践発表	第 12 回：	劇化教材 パネルシアター&エプロンシアター ・他 年長向け作品③				
第 5 回：	大型教材 ① 軍手人形&絵本&紙芝居・ 沖縄の昔話・他 作品②	第 13 回：	* 作品実践発表				
第 6 回：	大型教材 ① 軍手人形&絵本&紙芝居・ 沖縄の昔話・他 作品②	第 14 回：	* 作品実践発表				
第 7 回：	大型教材 ① 軍手人形&絵本&紙芝居・ 沖縄の昔話・他 作品②	第 15 回：	まとめと作品提出・授業内				
第 8 回：	* 作品実践発表						
テキスト： 必要に応じてプリントを配布する。							
参 考 書：							
評価方法・評価基準：							
授業への参加度・受講態度・提出物・製作作品(ディスプレイを含む 4 点)課題発表等を総合的に評価する。							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)			○	○	○		4 0
小テスト・ 授業内レポート							1 0
授業態度							0
受講者の発表							2 0
演 習							評価に加えず
授業への参加度							3 0
その他							
履修上の注意：							

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
保育メディア研究 (Pre-Sch. Educ. Media Studies)		米盛 徳市

## 授業の到達目標及びテーマ

### 授業の概要

保育園や幼稚園では、①ペイント（お絵かきソフト）を使って、子どもたちの視覚に訴える様々な表示を行ったり、②パワーポイント（プレゼンテーションソフト）を使って、卒園式で1年間の子どもたちの園生活の様子や研究発表等のプレゼンテーションを行ったりしている。③絵本作成を行う。

これからの保育士や幼稚園教諭には、ワープロやお絵かきソフト及びプレゼンテーションソフト等を活用できる能力が求められている。

そこで、本講義においては、保育園や幼稚園で求められている上述の内容について、すべての学生ができるようにすることを目指している。そして、その成果の一部を学内のすべての学生及び教員に公開する。

### 授 業 計 画

第1回：	保育園・幼稚園におけるマルチメディア活用の実態と今後の方向性	第8回：	ペイント（お絵描きソフト）で笑っている自画像を描き、パワーポイントに貼り付ける操作
第2回：	ワード（ワ－ド リフ）における画像のコピーと貼付・テキストボックスの活用	第9回：	自分が理想とする幼稚園の園庭で遊んでいる場面をペイントで描くⅠ
第3回：	ワードを活用した「学級便り」の作成	第10回：	自分が理想とする幼稚園の園庭で遊んでいる場面をペイントで描くⅡ
第4回：	パワーポイントの基本的な操作方法	第11回：	自分が理想とする幼稚園の園庭で遊んでいる場面をペイントで描くⅢ
第5回：	パワーポイントによる自己紹介プレゼンテーションの作成	第12回：	ペイントを使用した絵本作成Ⅰ
第6回：	アニメーション機能を取り入れた自己紹介プレゼンテーションの作成	第13回：	ペイントを使用した絵本作成Ⅱ
第7回：	アニメーション機能を取り入れた「母への感謝の手紙」プレゼンテーションの作成	第14回：	ペイントを使用した絵本作成Ⅲ
		第15回：	ペイントを使用した絵本作成Ⅳ

テキスト：エクスメディア 『超図解 PowerPoint 2002 for Windows』（株）エクスメディア

評価方法・評価基準：課題：425点、出席点：75点（欠席：5点減点、遅刻：2点減点）

正当な理由なくして4回以上欠席した場合は作品の提出の如何に関わらず単位は認められない。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価							
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演 習	○	○	○	○	○		85%
授業への参加度				○			15%
その他							

履修上の注意：保育士や幼稚園教諭を目指している学生は、できるだけ履修することが望ましい。

授業科目名		1 単位 (0－2)	担当教員					
相談援助（＝社会福祉援助技術） (Social Work Practice Skills)			砂川 亜紀美					
授業の到達目標及びテーマ：保育士に必要な「社会福祉に関する相談援助」の知識技術の習得								
授業の概要								
社会福祉に関わる基礎知識と実習経験を基にしながら、相談援助の方法と技術を学び活用する意義は何かを検討した上で、その概要、効果的な展開のあり方を事例と共に考えたい。								
授 業 計 画								
第 1 回： 授業への導入と相談援助の理論と意義および機能		第 9 回： 相談援助の評価						
第 2 回： 相談援助の発展史		第 10 回： 関係機関との協働・専門職との連携						
第 3 回： 現代日本における保育士の役割とソーシャルワーク		第 11 回： 多様性の理解（DVD）						
第 4 回： 相談援助の視点		第 12 回： 社会資源の活用、調整、開発						
第 5 回： 相談援助の対象・過程		第 13 回： 事例分析						
第 6 回： 相談援助の技術とアプローチ		第 14 回： ロールプレイ等						
第 7 回： 相談援助の計画		第 15 回： 授業内試験・まとめ						
第 8 回： 相談援助の記録								
テキスト： 特に指定せず、レジメや資料などは講師が印刷して配布する。								
参 考 書： 授業中に必要に応じて随時紹介する。								
評価方法・評価基準： 授業への参加度、授業態度、小レポート、試験等をすべて取り入れた評価をする。								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)		○	○					40
小テスト・ 授業内レポート		○		○		○		10
授業態度・				○	○			10
受講者の発表						○		10
演 習				○	○			10
授業への参加度				○	○			20
その他								
履修上の注意：								
演習を取り入れた形で授業を進めるので前向きで積極的な参加（意見や質問の表明）を求めたい。								

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
社会的養護 (Principles of Protective Care)		照屋 徹

授業の到達目標及びテーマ

- ・ 社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。
- ・ 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。
- ・ 社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について理解する。
- ・ 施設養護における家庭支援の重要性とその実践方法について理解する。

授業の概要

社会的養護の場としての児童福祉施設において、児童の養護に従事するための必要な専門的知識と技術について体系的に学び、さらに施設養護における専門職としての在り方について考察する。

授 業 計 画

第 1 回：	子どもの社会的養護の基本的な考え方	第 9 回：	施設養護の職員の専門性
第 2 回：	欧米における児童福祉観の変遷	第 10 回：	施設養護における基本的な援助技術
第 3 回：	日本における児童福祉観の変遷	第 11 回：	個別支援援助計画の作成（Ⅰ）
第 4 回：	養育環境に問題を抱える子どものための施設	第 12 回：	個別支援援助計画の作成（Ⅱ）
第 5 回：	心身に障がいを抱える子どものための施設	第 13 回：	虐待問題と児童養護
第 6 回：	情緒、行動に問題を抱える子どものための施設	第 14 回：	今後の課題と展望
第 7 回：	社会的養護の制度と法体系	第 15 回：	試験・まとめ
第 8 回：	児童福祉を支える主な法律		

テキスト： 松本峰雄編著「子どもの養護」 建帛社

参 考 書：

評価方法・評価基準：レポート、期末テスト、出席、授業態度等によって行う。

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)		○						80
小テスト・ 授業内レポート				○				10
授業態度・ 授業への参加度				○				10
受講者の発表								
演 習								
その他								

履修上の注意： 社会的養護に関する情報に関心を持ち、新聞、インターネット等をチェックしてほしい。

授業科目名		1 単位 (0-2)	担当教員				
保育の心理学（＝教育心理学） (Educational Psychology)			大城 りえ・中野 久美子				
授業の到達目標及びテーマ							
・ 子どもの心身の発達と保育実践について理解を深める。 ・ 生活と遊びを通して、子どもの経験の重要性や学習の過程を理解する。 ・ 保育現場における発達援助について学ぶ。							
授業の概要							
子どもの発達と保育実践について学ぶ。また、生活と遊びを通して子どもたちが経験していることや学習の過程を理解する。さらに、子どもたちの発達を促す具体的な発達援助について理解する。							
授 業 計 画							
第 1 回：オリエンテーション、保育の心理学とは		第 9 回：子どもの遊びと学び					
第 2 回：子ども理解における発達（胎児期から幼児期）の把握		第 10 回：生きる力の基礎を培うとは					
第 3 回：個人差や発達過程に応じた保育		第 11 回：自己の主体性の形成と発達援助					
第 4 回：身体感覚を伴う経験と環境の相互作用		第 12 回：発達の課題に応じた援助					
第 5 回：子ども相互のかかわりと関係作り		第 13 回：発達の連続性と就学への支援					
第 6 回：自己主張と自己抑制		第 14 回：子どもの発達と保育の課題					
第 7 回：集団と保育の環境		第 15 回：テスト・まとめ					
第 8 回：子どもの生活と学び							
テキスト： 保育の心理学（発行所：全国社会福祉協議会） その他担当者が準備する。							
参 考 書：							
評価方法・評価基準：期末試験、授業内レポート（毎時間提出）、授業への参加度							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
試験 (中間・期末試験)	○						4 0
小テスト・ 授業内レポート							1 5
授業態度				○			5
受講者の発表	○		○	○			5
演 習	○	○	○				2 0
授業への参加度			○				1 5
その他							
履修上の注意：授業内レポートとして、授業のまとめと感想を毎時間提出してください。							

授業科目名		2単位 (2-0)	担当教員				
子どもの保健Ⅱ（＝小児保健Ⅱ） (Health Care for Infants II)			笹良 秀美				
授業の到達目標及びテーマ							
Ⅰ 子どもの心身の健康を守り、育てるための科学としての知識・技術を学ぶ。							
Ⅱ 健全な成長を量るうえで必要な疾病や事故、その予防や防止についての知識を学ぶ。							
授業の概要							
授 業 計 画 （※講義内容については、若干変更になる事があります。）							
第 1 回： はじめに・ 講義に望む心構え／ 講義内容について		第 9 回： 小児の主な病気： アレルギー／神経系及び精神心理系 の病気					
第 2 回： 小児の主な病気・ 小児の病気の 特徴／先天異常 DVD 鑑賞（レポート提出）		第 10 回： 小児の主な病気：皮膚／骨・関節・筋 肉／眼・耳・鼻・口・歯の病気					
第 3 回： 小児の主な病気・ 感染する病気 ①ウイルス感染症		第 11 回： 小児の主な病気： 子どもの精神保健～心のケア～					
第 4 回： 小児の主な病気・ 感染する病気 ②細菌感染症／その他の感染症 感染症の予防と対策		第 12 回： 子どもの精神保健／子どもの心の 健康とその課題 グループワーク					
第 5 回： 沐浴の演習		第 13 回： 子どもの精神保健 ～虐待について～ グループワーク					
第 6 回： 小児の主な病気： 呼吸器系／循環器系の病気		第 14 回： まとめ					
第 7 回： 小児の主な病気： 消化器系／血液の病気／小児がん		第 15 回： 授業内試験					
第 8 回： 小児の主な病気： 腎臓・泌尿器・性器の病気							
テキスト： 「わかりやすい小児保健」 西村昂三編著 同文書院							
参 考 書：							
評価方法・評価基準： 1. 課題レポート 2. ミニテスト 3. 期末テスト							
成績評価 到達目標等 試験 (中間・期末試験)	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度							
その他							
履修上の注意：							

授業科目名	2単位 (2－0)	担当教員					
子どもの保健Ⅱ（＝小児保健Ⅱ） (Health Care for Infants II)		知念 菜穂子					
授業の到達目標及びテーマ							
授業の概要							
1. 子どもたちの心身の健康を守り、育てるための科学としての「小児保健学」の知識・技術を習得する。 2. 保育者として、子どものもっている生命力を十分に発揮させ、可能性を伸ばす実践活動をするための保育能力を養う。							
授 業 計 画 （※講義内容については、若干変更になる事があります。）							
第 1 回： はじめに	第 9 回： よくみられる病気と事故 皮膚の病気、骨・関節・筋肉の病気と異常						
第 2 回： よくみられる病気と事故 先天異常	第 10 回： よくみられる病気と事故 眼・耳・鼻・口・歯の病気と異常						
第 3 回： よくみられる病気と事故 感染する病気（ウィルスによる病気）	第 11 回： よくみられる病気と事故 子どもの事故						
第 4 回： よくみられる病気と事故 感染する病気（細菌感染による病気）	第 12 回： 病気の予防と保健指導						
第 5 回： よくみられる病気と事故 呼吸器系の病気・循環器系の病気	第 13 回： 子どもの精神保健～心のケア～						
第 6 回： よくみられる病気と事故 消化器の病気・血液の病気と小児がん	第 14 回： 生活環境と育児、子どもの保健Ⅱのまとめ						
第 7 回： よくみられる病気と事故 腎臓・泌尿器・性器内分泌の異常による病気	第 15 回： まとめと期末試験						
第 8 回： よくみられる病気と事故 アレルギー・神経系及び精神心理系の病気							
テキスト： 「わかりやすい小児保健」 西村昂三編著 同文書院							
参 考 書： 「子どもの保健Ⅰ」 佐藤益子編著 ななみ書房 「保育のための小児保健」 高内正子編著 保育出版社 「小児保健Ⅰ」 田中哲郎編著 建帛社 「保育・教育のための小児保健」 新平鎮博編著 光生館 「保育保健の基礎知識」 巷野悟郎監修 日本小児医事出版社							
評価方法・評価基準： 1. 課題レポート 2. 期末テスト							
成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（％）
試験 （中間・期末試験）							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度							
その他							
履修上の注意：							

授業科目名		1 単位 (0－2)	担当教員				
子どもの保健Ⅲ（＝小児保健実習） (Infants Health Care Practice)			笹良 秀美				
授業の到達目標及びテーマ							
① 子どもの保健Ⅰの理論をふまえ、子どもの健康・安全の捉え方及び成長発達に応じた計画・指導・方法について具体的に学び、実践できる能力を習熟する。							
② 現代社会における子どもや子どもの家族などの心の健康問題について理解し、実際の関わり方の考え方やその方法について学ぶ							
授業の概要：小児保健の基本的知識・技術を習得し、実践活動ができる保育能力を養う。							
授 業 計 画 ※講義内容については、若干変更になる事があります。							
第 1 回：はじめに 授業のここがまえ／ 講義内容		第 9 回：よく起こる事故について知ろう DVD 鑑賞					
第 2 回：演習① 手洗いの実習 保育者にとっての手洗いの意義 抱っこの実習 月齢に応じた方法		第 10 回：演習⑧ 子どもに起きやすい事故 グループワーク（家庭内・園内の事故）					
第 3 回：演習② 子どもの発育を知ろう 身体計測（頭囲・胸囲・体重・身長）		第 11 回：演習⑨ 子どもに起きやすい事故の応急処置 止血法、包帯法					
第 4 回：演習③ おむつ交換／着替えの方法 紙おむつと布おむつ、衣服の選び方		第 12 回：演習⑩ 子どもの生活習慣について考えてみよう I					
第 5 回：演習④ 沐浴の演習		第 13 回：演習⑪ 子どもの生活習慣について考えてみよう II					
第 6 回：演習⑤ 歯磨きの演習 指導法を考えて実践してみよう		第 14 回：まとめ					
第 7 回：演習⑥ 保育における看護 グループワーク		第 15 回：授業内試験					
第 8 回：演習⑦ 保育における看護 発表							
テキスト： 子どもの保健演習ノート 診断と治療社							
参 考 書：							
兼松百合子・遠藤巴子編著『小児保健実習 保育と保健・看護の視点から』同文書院							
跡見一子編著『小児保健実習』建帛社							
高内正子編著『小児保健実習』保育出版社							
千羽喜代子・吉岡毅・長谷川浩道『実習育児学』日本小児医事出版社							
母子愛育会・日本子ども家庭総合研究所編『最新乳幼児保育指針』日本小児医事出版社							
評価方法・評価基準：授業への参加度、講義態度、グループワーク参加度、レポート提出、期末テスト							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価							
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度							
その他							
履修上の注意：（提出物）H25・1月まで『保健だより』 各レポート(指定)							

授業科目名	1 単位 (0－2)	担当教員					
子どもの保健Ⅲ（＝小児保健実習） (Infants Health Care Practice)		知念 菜穂子					
授業の到達目標及びテーマ							
授業の概要：子どもの保健の基本的知識・技術を習得し、実践活動ができる保育能力を養う。							
授 業 計 画 ※講義内容については、若干変更になる事があります。							
第 1 回： はじめに	第 9 回： よく起こる事故について知ろう						
第 2 回： 子どもの発育を知ろう 身体測定	第 10 回： いざというときの応急処置について知ろう						
第 3 回： 子どもの発達を知ろう	第 11 回： 慢性疾患や障害をもつ子どもの保育について知ろう						
第 4 回： 子どもの健康状態を知ろう バイタルサインの測定	第 12 回： 子どもの生活習慣について考えてみよう						
第 5 回： 日常における養護の方法① 抱っこ・着替え・おむつ替え等	第 13 回： 世界の子どもの保健をながめてみよう						
第 6 回： 日常における養護の方法② 沐浴・口腔の清潔等	第 14 回： 子どもの保健Ⅲまとめ						
第 7 回： 子どもの保育環境づくり	第 15 回： まとめと期末試験						
第 8 回： よくわかる病気について知ろう							
テキスト： これならわかる！「子どもの保健演習ノート」 *子育てパートナーが知っておきたいこと* 榎原 洋一 監修 診断と治療社							
参 考 書： 「子どもの保健Ⅱ」 佐藤 益子 編著 ななみ書房 「子どもの保健実習」 兼松 百合子 他 編著 同文書院 「小児保健実習」 高内正子編著 保育出版社 「最新乳幼児保育指針」 母子愛育会・日本子ども家庭総合研究所編 日本小児医事出版社							
評価方法・評価基準： 1. 課題テーマによるレポート 2. 演習課題 3. 期末試験							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度							
その他							
履修上の注意：							

授業科目名		2 単位 (0－2)	担当教員					
障害児保育（＝障害児保育演習） (Handicapped Child Caring Pract.)			山田 悦子					
授業の到達目標								
知識理解：健常児、障害児の発達を説明できる。		関心意欲：障害児保育・療育に興味を持てる。						
思考判断：育ちの基本を指摘できる。		態度：既存概念に疑いを持つ。						
授業の概要								
1) 様々な障害についての理解を促し、個別的な保育上の留意点について学習させる。								
2) 障害児保育場面における日常生活動作、食事、排泄、更衣の生活動作など具体的な保育方法について理解させる。								
3) 相談機関等の種類と内容を理解すると共に障害児への個別的援助の概略と保護者を中心とした支援の内容に理解を深めさせる。								
授 業 計 画								
第 1 回： 障害児の発達について		第 9 回： 自閉症スペクトラムについて						
第 2 回： "		第 10 回： 演習						
第 3 回： 障害児の種類とその特徴		第 11 回： 演習						
第 4 回： "		第 12 回： 障害児保育発達の保障						
第 5 回： 発達の遅れ		第 13 回： "						
第 6 回： "		第 14 回： きょうだいへの支援						
第 7 回： 自閉症スペクトラムについて		第 15 回： まとめ						
第 8 回： "								
テキスト： 『障害児保育』 近藤直子・白石正久・中村尚子編著 全障研出版								
参 考 書： 『障害児の療育的保育』『発達とは矛盾をのりこえること』、その他等								
評価方法・評価基準： 授業への参加度・授業態度・期末テストで評価								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)		○	○		○			7 0
小テスト・ 授業内レポート								評価に加えず
授業態度				○				2 0
受講者の発表								評価に加えず
演 習								評価に加えず
授業への参加度				○				1 0
その他								
履修上の注意：								
講義には目的意識を持って、主体的に参加すること。講義を通じて自ら思考する態度を身に付けること。また、講義中は他者への迷惑行為（携帯電話・メール・私語・離席等）を固く禁止する。								

授業科目名	2単位 (0－2)	担当教員																																																																													
社会的養護内容（＝養護内容演習） (Seminar in Child Care)		大沼 直樹																																																																													
授業の到達目標及びテーマ 「命を考える」ことを中心に「この子らに罪はない」ということを前提に社会的養護について考察する。特に、保育士として『子ども・障害児』という当事者を中心とした発想、考え方を身につけてもらうことを目指す。																																																																															
授業の概要 社会的養護の授業の受講と施設実習を修了していることを前提に、家族(家庭)養護と社会的養護を踏まえ、障害のある子どもたちの事例を活用しつつ討論を中心とした授業を、展開する。																																																																															
授 業 計 画 第 1 回： 命を大切にすること「Aちゃんの歩み」VTR より 第 2 回： 子どもの権利とは何か 第 3 回： 家庭的養護と社会的養護について 第 4 回： 特別支援教育について 第 5 回： 重度重複障害児とは？ 第 6 回： 知的障害児とは？ 第 7 回： 肢体不自由児とは？ 第 8 回： 自閉症児とは？ 第 9 回： LD 児、アスペルガー症候群とは？ 第 10 回： 視覚障害児とは？聴覚障害児とは？ 第 11 回： インタレスト・メソッドについて 第 12 回： 障害のある子どもとどうかかわるか(1) 第 13 回： 障害のある子どもとどうかかわるか(2) 第 14 回： 個別の教育支援計画の作成について 第 15 回： まとめ																																																																															
テキスト： 随時必要に応じて資料を配布します。																																																																															
参 考 書： 大沼直樹著「実践に備えたい特別支援教育の基礎情報 45」明治図書出版 大沼直樹著「保護者との連携をいかにつくるか」明治図書出版 大沼直樹著「インタレスト・メソッド」明治図書出版																																																																															
評価方法・評価基準：																																																																															
<table><tr><td>到達目標等</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>態度</td><td>技能・表現</td><td>その他</td><td>評価割合(%)</td></tr><tr><td>成績評価</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>試験 (中間・期末試験)</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td>30</td></tr><tr><td>小テスト・ 授業内レポート</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>30</td></tr><tr><td>授業態度</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>評価に加えず</td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td>30</td></tr><tr><td>演 習</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>評価に加えず</td></tr><tr><td>授業への参加度</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td>10</td></tr><tr><td>その他</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	成績評価								試験 (中間・期末試験)	○	○		○			30	小テスト・ 授業内レポート	○						30	授業態度							評価に加えず	受講者の発表	○	○	○		○		30	演 習							評価に加えず	授業への参加度			○				10	その他														
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																																								
成績評価																																																																															
試験 (中間・期末試験)	○	○		○			30																																																																								
小テスト・ 授業内レポート	○						30																																																																								
授業態度							評価に加えず																																																																								
受講者の発表	○	○	○		○		30																																																																								
演 習							評価に加えず																																																																								
授業への参加度			○				10																																																																								
その他																																																																															
履修上の注意：第二回目の授業より事前に資料を配布します。必ず資料に目を通しておくこと。																																																																															

授業科目名	2 単位	担当教員
保育所実習Ⅰ（＝保育実習Ⅰ） (Nursery Sch. Teaching Pract.Ⅰ)		照屋 建太
授業の到達目標及びテーマ		
1. 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。		
授業の概要		
保育所実習を通し、子どもの発達、保育内容、保育士の役割等について学ぶ。		
実 習 内 容      実習の方法は、大きく分けると、次の段階がある。		
1. 保育所の役割と機能 ①保育所の生活と一日の流れ ②保育所保育指針の理解と保育の展開 2. 子どもの理解 ①子どもの観察とその記録による理解 ②子どもの発達過程の理解 		

授業科目名	2単位	担当教員																																																																								
施設実習 I (Pract. in Child Welfare Inst. I)		川西 康裕																																																																								
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 1. 児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解します。 2. 観察や子ども（利用者）とのかかわりを通して子ども（利用者）への理解を深めます。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育（利用者の支援）および保護者（家族）への支援について総合的に学びます。 4. 保育（支援）の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解します。 5. 保育士（支援員）の業務内容や職業倫理について具体的に学びます。																																																																										
<b>授業の概要</b> 施設実習指導を履修した学生が、居住型児童福祉施設等及び障害児者通所施設での実習を通じて、施設と利用者についての理解を深め、とりわけ基本的生活習慣の指導法や利用者との信頼関係のきづきかた等について体験的に学習するとともに、広く施設における保育士の職務内容・役割ならびに他の専門職員とのチームワークのあり方などを学びます。																																																																										
<b>実 習 内 容</b> <b>&lt;居住型児童福祉施設等及び障害児者通所施設における実習の内容&gt;</b> 1. 施設の役割と機能 (1) 施設の生活と一日の流れ (2) 施設の役割と機能 2. 子ども（利用者）理解 (1) 子ども（利用者）の観察とその記録 (2) 個々の状態に応じた援助やかかわり 3. 養護内容・生活環境 (1) 計画に基づく活動や援助 (2) 子ども（利用者）の心身の状態に応じた対応 (3) 子ども（利用者）の活動と生活の環境 (4) 健康管理、安全対策の理解 4. 計画と記録 (1) 支援計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と倫理 (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理																																																																										
テキスト：	参 考 書：																																																																									
<b>評価方法・評価基準：実習施設の評価に実習担当教員の評価を加点して採点します。</b>																																																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標等</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>態度</th> <th>技能・表現</th> <th>その他</th> <th>評価割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>成績評価</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>試験 (中間・期末試験)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>小テスト・ 授業内レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業態度・ 授業への参加度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>受講者の発表</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>演 習</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習担当教員の評価 (日誌、レポート、反省会、 訪問指導等による)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>実習施設評価</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>50</td> </tr> </tbody> </table>	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	成績評価								試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート								授業態度・ 授業への参加度								受講者の発表								演 習								実習担当教員の評価 (日誌、レポート、反省会、 訪問指導等による)	○	○	○	○	○		50	実習施設評価	○	○	○	○	○		50		
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																																			
成績評価																																																																										
試験 (中間・期末試験)																																																																										
小テスト・ 授業内レポート																																																																										
授業態度・ 授業への参加度																																																																										
受講者の発表																																																																										
演 習																																																																										
実習担当教員の評価 (日誌、レポート、反省会、 訪問指導等による)	○	○	○	○	○		50																																																																			
実習施設評価	○	○	○	○	○		50																																																																			
履修上の注意：																																																																										

授業科目名		1 単位 (0－2)	担当教員				
保育所実習指導Ⅰ（＝保育実習指導） (Nurse.Schools Pract. Orientation)			照屋建太・喜舎場勤子				
授業の到達目標及びテーマ							
1. 保育実習の意義・目的を理解する。							
2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。							
3. 保育施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。							
4. 実習の計画、実践、観察、評価の方法や内容について具体的に理解する。							
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。							
授業の概要							
1. 事前指導は実習内容全般にわたって把握する。							
2. 事後指導は実習で得た感動や反省、問題点などを出し合いまとめる。							
授 業 計 画							
第 1 回： 保育実習の意義 ①実習の目的		第 9 回： 実習の計画と記録 ①実習における計画と実践					
第 2 回： 保育実習の意義 ②実習の概要		第 10 回： 実習の計画と記録 ②実習における観察、記録及び評価					
第 3 回： 実習の内容と課題の明確化 ①実習の内容		第 11 回： 保育技能の紹介と練習					
第 4 回： 実習の内容と課題の明確化 ②実習の課題		第 12 回： 保育技能の紹介と練習					
第 5 回： 事前訪問（実習先オリエンテーション）と訪問時のマナー		第 13 回： 特別講義					
第 6 回： 実習に際して留意事項 ①子どもの人権と最善の利益の考慮		第 14 回： 事後指導における実習の総括の明確化 ①実習の総括と自己評価					
第 7 回： 実習に際して留意事項 ②プライバシーの保護と守秘義務		第 15 回： 事後指導における実習の総括の明確化 ②課題の明確化					
第 8 回： 実習に際して留意事項 ③実習生としての心構え							
テキスト： 保育所保育指針、その他必要な資料は担当者が準備する。							
参 考 書：							
評価方法・評価基準： レポート、発表、出席、その他（提出物）							
成績評価 到達目標等 試験 （中間・期末試験） 小テスト・ 授業内レポート	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（%）
授業態度							10
受講者の発表							10
演 習							
授業への参加度							30
その他							50
履修上の注意：							

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員
施設実習指導 I (=施設実習指導) (Welfare Inst. Pract. Orientation)		川西康裕

### 授業の到達目標及びテーマ

1. 施設実習の意義・目的を理解し、社会的養護（保育、支援）について総合的に学びます。
2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にします。
3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解します。
4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

### 授業の概要

1.	施設実習の意義	4.	実習の計画と記録
(1)	実習の目的	(1)	実習における計画と実践
(2)	実習の概要	(2)	実習における観察、記録及び評価
2.	実習の内容と課題の明確化	5.	事後指導における実習の総括と課題の明確化
(1)	実習の内容	(1)	実習の総括と自己評価
(2)	実習の課題	(2)	課題の明確化
3.	実習に際しての留意事項		
(1)	子ども(利用者)の人権と最善の利益の考慮		
(2)	プライバシーの保護と守秘義務		

### 授 業 計 画

第 1 回：	オリエンテーションー施設実習とは	第 9 回：	先輩からの情報伝達会 保育科専任教員による実習資格審査・判定会議
第 2 回：	実習先希望調査 実習配置先の決定	第 10 回：	部分実習発表会
第 3 回：	事前訪問・ボランティア レポート		講演「出会い～支えられるだけでなく、支え合える人でありたい」（新里龍太氏） 実習日誌、評価表、出勤簿、実習レポート集配布
第 4 回：	実習施設に関する調査 レポート	第 12 回：	施設オリエンテーション 実習実施
第 5 回：	演習「心身障害児への対応について」 (沖縄中部療育医療センター 派遣講師)	第 13 回：	実習終了者からの情報伝達会
第 6 回：	DVD「保育者への歩みー乳児院・児童 養護施設」実習生調査書	第 14 回：	反省会 実習日誌、実習レポート提出
第 7 回：	DVD「施設実習の予備知識ー知的障害者更 生施設」実習計画書 実習先地図	第 15 回：	施設評価票伝達 課題の発見
第 8 回：	実習記録を学ぶ（先輩の日誌から）		

テキスト： 小野澤 昇、田中利則・大塚良一 編著『保育基礎を学ぶ福祉施設実習』 ミネルヴァ書房、2014（変更の可能性あり）

参 考 書： 分野別に適宜紹介します。

### 評価方法・評価基準：

実習施設に関する事前学習レポート作成、施設見学・ボランティア報告、実習計画書、実習生調査書、実習日誌、実習レポート等により、総合的に評価します。

成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
レポート (事前訪問、調査)	○	○	○				40
テキスト試験	○	○	○				20
授業態度・ 授業への参加度			○	○			+α
受講者の発表			○	○	○		10
指導案		○	○		○		10
特別講義レポート	○	○	○				10
その他調査書、計画書		○	○				10

履修上の注意：児童家庭福祉、社会的養護等の学習に関連づけて、実習施設について集中的に学んでください。

普段から健康管理に気をつけ、部分実習・責任実習に向けて技能をみがいでください。

授業科目名		2 単位	担当教員					
保育所実習Ⅱ（＝保育実習Ⅱ） （Nursery Sch. Teaching Pract. II）			赤嶺 優子					
授業の到達目標及びテーマ								
保育所の保育を実際に実践し、保育士としての必要な資質、能力、技術を習得させる。また、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。								
授業の概要								
保育実習Ⅰで習得した知識や経験をふまえ、また、諸専門科目で学んだ理論をもとに、保育所保育士としての知識や指導法を学ぶ。さらに保育所における子育て支援についての理解を深める。								
授 業 計 画								
第 1 回：		オリエンテーション・保育所実習Ⅰの振り返りと保育所実習Ⅱの課題の明確化・課題・他						
第 2 回：		保育所保育の目的・意義・子どもの最善の利益						
第 3 回：		実習記録の意義・方法の理解「場面の記録の取り方・書き方」						
第 4 回：		保育所実習Ⅱの構え・保護者支援・保育士としての職業倫理						
第 5 回：		部分実習指導案の作成						
第 6 回：		部分実習指導案の作成						
第 7 回：		部分実習指導案の作成						
第 8 回：		オリエンテーション （実習先事前訪問）						
第 9 回：		特別講義（地域子育て支援について）						
第 10 回：		特別講義 （特別な支援を要する子供について）						
第 11 回：		実習の振り返り						
第 12 回：		実習の全体反省会						
第 13 回：		場面記録からの実習の振り返り						
第 14 回：		自己の成長と新たな課題の明確化						
第 15 回：		個別事後指導（実習の総括と評価）						
テキスト：								
参 考 書：								
評価方法・評価基準：実習日誌、実習研究レポート、現場評価、その他								
到達目標等		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（％）
成績評価								
試験 （中間・期末試験）								
小テスト・ 授業内レポート								
授業態度・ 授業への参加度								
受講者の発表								
演 習								
出 席								
その他								
履修上の注意：								
実習の準備として、保育園の事前訪問、指導案の準備、自分の特技の用意等をする。								

授業科目名	2 単位	担当教員						
施設実習Ⅱ (Pract. in Child Welfare Inst. II)		川西 康裕						
授業の到達目標及びテーマ								
1. 児童福祉施設等の役割や機能について実践を通して、理解を深めます。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養います。 3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解します。 4. 保育士としての自己の課題を明確化します。								
授業の概要								
施設実習Ⅰ、相談援助、社会的養護内容等諸学科で習得した知識と経験をふまえ、児童厚生施設など施設実習Ⅰで実習できなかった児童福祉施設その他社会福祉関係諸法令の規定に基づき設置されている施設で実習することによって、保育士として必要な指導技術の幅を広げ、自らの児童観・人間観を深め、職業人としての社会参加意欲を高めます。								
実 習 内 容								
1. 児童福祉施設等の役割と機能 2. 施設における支援の実際 (1) 受容し、共感する態度 (2) 個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解 (3) 個別支援計画の作成と実践 (4) 子どもの家族への支援と対応 (5) 多様な専門職との連携 (6) 地域社会との連携 3. 保育士の多様な業務と職業倫理 4. 保育士としての自己課題の明確化								
テキスト：								
参 考 書：								
評価方法・評価基準：実習施設の評価に実習担当教員の評価を加点して採点します。								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)								
小テスト・ 授業内レポート								
授業態度・ 授業への参加度								
受講者の発表								
演 習								
実習担当教員の評価 (日誌、レポート、反省会、 訪問指導等による)	○	○	○	○	○	○		50
実習施設の評価	○	○	○	○	○	○		50
履修上の注意：								

授業科目名		1 単位 (0－2)	担当教員					
保育所実習指導Ⅱ（＝保育実習指導） (Nurse.Schools Pract. Orientation)			山城眞紀子・赤嶺優子					
授業の到達目標及びテーマ								
1. 保育所実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と事後評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。								
授業の概要								
1. 事前指導においては、①実習に対する理解を深め、効果的で有意義な実習となるよう十分な準備をする。 ②実習生としての基本的な心構えをはじめ、実習内容を十分に理解し、自己課題を持って実習に望めるようにする。 2. 事後指導においては、①実習反省会を行い、実習で得た感動や反省、問題点などを出し合い、グループ討議及び全体でまとめる。 ②実習の総括と事後評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。								
授 業 計 画								
<div>第 1 回：オリエンテーション 保育所実習Ⅰの振り返りと課題・実習先の理解</div> <div>第 2 回：今日の保育所と保育士の役割</div> <div>第 3 回：実習Ⅱの意義・内容と方法の理解</div> <div>第 4 回：保育における援助の実践的理解</div> <div>第 5 回：保育の計画と日案作りの実際</div> <div>第 6 回：部分・責任指導案作成</div> <div>第 7 回：部分・責任指導案作成</div> <div>第 8 回：保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善</div>		<div>第 9 回：保育技能の紹介と練習</div> <div>第 10 回：保育技能の紹介と練習</div> <div>第 11 回：特別講師（地域子育て支援や特別事業の取り組みでの保育の理解）</div> <div>第 12 回：事後指導 全体反省会</div> <div>第 13 回：個別事後指導① 実習の総括と評価、課題の明確化</div> <div>第 14 回：個別事後指導② 実習の総括と評価、課題の明確化</div> <div>第 15 回：個別事後指導③ 実習の総括と評価、課題の明確化</div>						
テキスト：保育所保育指針、その他必要な資料は担当者が準備する。								
参 考 書：								
評価方法・評価基準： 課題、授業態度、レポート等提出物、その他								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)								
小テスト・ 授業内レポート								60
授業態度								
受講者の発表								
演 習								
授業への参加度								
その他								40
履修上の注意：①実習Ⅱでの固定クラスを確認しておく。 ②実習先の実習期間の月案か週案を把握しておく。								

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員
施設実習指導Ⅱ（＝施設実習指導） (Welfare Inst. Pract. Orientation)		川西 康裕

#### 授業の到達目標及びテーマ

- (1) 施設実習の意義・目的を理解し、社会的養護（保育・支援）について総合的に学びます。
- (2) 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、養護（保育・支援）実践力を培います。
- (3) 養護（保育・支援）の観察、記録及び自己評価等を踏まえた養護（保育・支援）の改善について実践や事例を通して学びます。
- (4) 保育士の専門性と職業倫理について理解します。
- (5) 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

#### 授業の概要

1.	施設実習による総合的な学び	3.	計画と観察、記録、自己評価
(1)	子ども（利用者）の最善の利益を考慮した養護（保育・支援）の具体的理解	(1)	養護（保育・支援）の全体計画に基づく具体的な計画と実践
(2)	子ども（利用者）の養護（保育・支援）と保護者支援	(2)	養護（保育・支援）の観察、記録、自己評価に基づく養護（保育・支援）の改善
2.	養護（保育・支援）実践力の育成	4.	保育士の専門性と職業倫理
(1)	子ども（利用者）の状態に応じた適切なかわり	5.	事後指導における実習の総括と評価
(2)	保育の表現技術を生かした保育実践	(1)	実習の総括と自己評価
		(2)	課題の明確化

#### 授 業 計 画

第1回：	オリエンテーション施設実習Ⅱとは
第2回：	実習先希望調査 実習配置先の決定
第3回：	事前訪問・ボランティア レポート
第4回：	実習施設に関する調査
第5回：	実習施設に関する調査 レポート
第6回：	実習生調査書
第7回：	実習計画書 実習先地図
第8回：	実習記録を学ぶ（先輩の日誌から）

第9回：	部分実習発表会 保育科専任教員による実習資格審査・判定会議
第10回：	直前の情報伝達会 実習日誌、評価表、出勤簿、実習レポート作成法配布
第11回：	施設オリエンテーション
第12回：	実習実施
第13回：	反省会 実習日誌、実習レポート提出
第14回：	他施設見学
第15回：	施設評価票伝達 課題の発見

テキスト： 小野澤 昇、田中利則・大塚良一 編著『保育士のための福祉施設実習』 ミネルヴァ書房、2014（変更の可能性あり）

参 考 書： 分野別に適宜紹介します。

#### 評価方法・評価基準：

実習施設に関する事前学習レポート作成、施設見学・ボランティア報告、実習計画書、実習生調査書、実習日誌、実習レポート等により、総合的に評価します。

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
レポート (事前訪問、調査、実習後)	○	○	○				40
見学レポート	○	○	○				20
授業態度・ 授業への参加度			○	○			+α
受講者の発表				○	○		10
日 誌	○	○	○		○		10
他施設見学レポート	○	○	○				10
その他調査書、計画書			○	○			10

履修上の注意：社会福祉、相談援助、社会的養護内容等の学習に関連づけて、実習施設について集中的に学んでください。  
普段から健康管理に気をつけ、部分実習・責任実習に向けて技能をみがいでください。

授業科目名		2単位 (2-0)	担当教員				
発達心理学Ⅱ (Developmental Psychology II)			大城 りえ				
授業の到達目標及びテーマ：青年期の発達課題について理解する。							
授業の概要 青年期の心理と行動について、学生自身の体験も踏まえながら理解していく。 また、心理テストを行い、自分自身についての理解を深める。							
授 業 計 画							
第 1 回： オリエンテーション、 青年心理学とは		第 9 回： 社会との関係					
第 2 回： 青年期とは		第 10 回： 生き方と文化					
第 3 回： 自分へのめざめ		第 11 回： 心の問題					
第 4 回： ジェンダー		第 12 回： 行動の問題					
第 5 回： 家族関係		第 13 回： ストレス					
第 6 回： 友人関係		第 14 回： ライフ・サイクル					
第 7 回： 恋愛とは		第 15 回： まとめ・授業内試験					
第 8 回： 結婚							
テキスト：毎回、担当者が資料を配布する。							
参 考 書： 随時、紹介する。							
評価方法・評価基準：期末試験、授業への参加度							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○		○				50
小テスト・ 授業内レポート							評価に加えず
授業態度							評価に加えず
受講者の発表							評価に加えず
演 習							評価に加えず
授業への参加度			○				50
その他							
履修上の注意：毎回、講義の後半にその時間の課題を自分自身と関連付けて話し合いを行いますので、出席重視です。							

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員					
海外幼児教育研究 (Overseas Studies for Presch. Ed.)		喜舎場 勤子					
授業の到達目標及びテーマ 知識理解：幼児教育の世界的動向について基本的な説明ができる。 思考判断：自国の幼児教育や保育を客体化できる。 関心意欲：多文化共生への関心を高める。 態 度：日本や沖縄文化について、子どもへの簡単なプレゼンテーションができる。							
授業の概要 幼児教育の世界的動向や実践方法について学び、日本における幼児教育や保育実践を客観的に見る目を養う。また、自己の文化理解を深め、実践において活用できる教材開発を行う。							
授 業 計 画							
第 1 回： オリエンテーション	第 9 回： ゲスト・スピーカー						
第 2 回： 幼児教育の世界的動向	第 10 回： 多文化共生教育①						
第 3 回： 保育実践①北欧型	第 11 回： 多文化共生教育②						
第 4 回： ジェンダーと育児	第 12 回： 子育て支援と77°ロ-チ①						
第 5 回： 保育実践②欧米型	第 13 回： 子育て支援と77°ロ-チ②						
第 6 回： グローバリゼーションと学力観	第 14 回： 開発途上国の幼児教育						
第 7 回： 保育実践③モンテソーリ・メソッド	第 15 回： まとめ・授業内試験						
第 8 回： しつけと文化							
テキスト：必要に応じて資料を配布する		参 考 書：					
評価方法・評価基準：							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○	○					50
授業態度	○	○	○	○			30
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度			○	○			20
その他							
履修上の注意：							

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員
総合表現 (Comprehensive expression and activity)		大山伸子

#### 授業の到達目標及びテーマ

保育・幼児教育において表現する様々な行為は子どもにとって日常的な活動であり、本来、分断化されない総合的なものであると考えられる。本科目「総合表現」では、上記した問題意識から、まずは身体・音・造形という馴染みある観点を入り口とし、最終的には全てを横断包括する「総合的な表現活動」への認識を高める事を目的とする。

#### 授業の概要

総合表現という科目は、身体による表現（山城）と音による表現（大山）、造形による表現（吉村）の教員が三人一組で行うもので、全体的概要としては、個々に基本的演習を行い、後半ではテーマを設けて学生が発表を行う。保育・幼児教育の現場で展開できる「表現」のあり方を演習形式で探っていくものである。

#### 授 業 計 画

第 1 回： オリエンテーション・総合表現の意義と目標	第 9 回： 総合表現のテーマ検討
第 2 回： 総合表現と子ども	第 10 回： 学生による発表①
第 3 回： 身体の表現について①	第 11 回： 学生による発表②
第 4 回： 身体の表現について②	第 12 回： 学生による発表③
第 5 回： 音の表現について①	第 13 回： 学生による発表④
第 6 回： 音の表現について②	第 14 回： 総合表現の具体化と現場
第 7 回： 造形の表現について①	第 15 回： 発表評価およびまとめ
第 8 回： 造形の表現について②	

テキスト： 作成資料配布

参 考 書： 特になし

評価方法・評価基準：

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度			○	○			40
受講者の発表					○		20
演 習					○		20
授業への参加度				○			20
その他							

履修上の注意：場所の移動が考えられるので、事前に告知される準備物に留意すること

授業科目名	2単位 (0－2)	担当教員					
手話 I (Sign Language I)		神田朋子・沖山あゆみ					
授業の到達目標及びテーマ： 聴覚障害について学び、手話言語の基本が理解できる。							
授業の概要 聴覚障害者のコミュニケーション手段である手話言語を理解するとともに、ろう講師と直接会話をすることでろう講師の話の内容が理解でき、自己紹介が表現できるようなレベルまで到達する。また、聴覚障害者の歴史・教育・就労など社会状況を学習し、ろう文化についても認識を深めていけるようにしていく。							
授 業 計 画							
第 1 回： 手話とは？・自己紹介 1：名前	第 9 回： コーダについて						
第 2 回： 自己紹介 2：家族	第 10 回： 保育士の仕事						
第 3 回： 自己紹介 3：趣味	第 11 回： 聴覚障害者の歴史・教育						
第 4 回： 自己紹介 4：生活	第 12 回： 短文の読み取り						
第 5 回： 自己紹介 5：仕事	第 13 回： 短文の表現						
第 6 回： 自己紹介 6：地域	第 14 回： 読み取り・表現のまとめ学習						
第 7 回： 1 回目から 5 回目までの復習	第 15 回： テスト (①学科 ②実技)・まとめ						
第 8 回： ろう文化について 1							
テキスト： 手話奉仕員養成テキスト 全日本ろうあ連盟							
参 考 書： 『わたしたちの手話（1）～（10）巻 会話編 1～3』 全日本ろうあ連盟出版局							
評価方法・評価基準：手話実技（読み取り・表現）・聴覚障害者に関する基礎知識							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（％）
試験 (中間・期末試験)	○	○	○	○	○		80
小テスト・ 授業内レポート							評価に加えず
授業態度							15
受講者の発表							評価に加えず
演 習							評価に加えず
授業への参加度							5
その他							
履修上の注意：授業中は、講師の手話に集中し音声言語は慎むこと。							

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員					
手話Ⅱ (Sign Language II)		神田朋子・沖山あゆみ					
授業の到達目標及びテーマ ろう講師との会話がある程度成り立ち、日常会話ができるようにする。							
授業の概要 前期で学習した内容を元に更にレベルアップできるようにしていき、自分の意見が手話でできるようにしていく。							
授 業 計 画							
第 1 回： 前期の総復習 1	第 9 回： 聞き取り学習 1						
第 2 回： 前期の総復習 2	第 10 回： 聞き取り学習 2						
第 3 回： 前期の総復習 3	第 11 回： 読み取り・聞き取りまとめ 1						
第 4 回： 手話の構成要素 1 (位置・方向・動き)	第 12 回： ろう文化について 2						
第 5 回： 手話の構成要素 2 (位置・方向・動き)	第 13 回： 読み取り・聞き取りまとめ 2						
第 6 回： 非手指動作について	第 14 回： 手話通訳制度について						
第 7 回： 読み取り学習 1	第 15 回： テスト (①学科 ②実技)・まとめ						
第 8 回： 読み取り学習 2							
テキスト： 手話奉仕員養成テキスト 全日本ろうあ連盟							
参 考 書： 手話通訳がわかる本							
評価方法・評価基準：手話実技と学科試験の二通りで行います。							
成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○	○	○	○	○		80
小テスト・ 授業内レポート							評価に加えず
授業態度							15
受講者の発表							評価に加えず
演 習							評価に加えず
授業への参加度							5
その他							
履修上の注意：講師の話に対して「分かる・分からない」の意思表示ははっきりできるようにする。また授業中の音声言語は慎むこと。							

授業科目名		1 単位 (0-2)	担当教員				
音楽Ⅲ (Music III)			大山 伸子				
授業の到達目標及びテーマ：音楽Ⅰ・Ⅱの基礎クラス（必修）を経て、音楽Ⅲは応用クラス（選択）である。ピアノ奏法を中心に、さまざまなアンサンブル奏法を学習し、幼児教育現場で十分に力が発揮できる保育者をめざす。授業の最終目標は、学内演奏会の開催と出演である。							
授業の概要：「音楽Ⅱ」で学習したことを踏まえ、幼児音楽を具体的に教材化できる能力や、ピアノ演奏力が高められるようにする。授業形態は、習熟度にあわせた個人レッスンを行い、歌唱伴奏法や独奏、連弾など多様な音楽表現法やピアノ奏法を習得する。幼児教育としての「表現」領域の重要性を理解し、保育現場で役立つ応用力や、より資質の高い音楽能力を獲得する。学習成果として、卒業演奏会を行う。							
授 業 計 画							
1. 課 題 (1)各自の習熟度に合わせた選曲及び教員による課題： ①練習曲（ハノン No. 38 及びNo. 39）②ピアノ独奏 ③ピアノ連弾（4手連弾、6手連弾） (2)幼児曲 各自で選曲： ①童謡 ②生活の歌 (3)伴奏法： ①コードネーム ②弾き歌い (4)その他： ① ハンドベル奏法 ②その他の楽器によるアンサンブル奏法 (5)まとめ： ○ 学習成果として、学内演奏会を行う。							
2. 授 業 計 画（習熟度能力に応じた任意の曲で進める）							
第1回： オリエンテーション及びハノン（No. 38）の課題宿題		第 9回： 任意曲 例：「モーツァルトピアノソナタ K. 331 番」「ジブリの曲」より					
第2回： ハノン No. 38（音階）のレッスン		第10回： ハンドベル演奏の任意曲					
第3回： ハノン No. 39(4オクターヴのハ長調音階)		第11回： 任意曲及ハンドベル					
第4回： ハノン No. 39（4オクターヴのト長調音階）及び各自の習熟度に応じた課題		第12回： ピアノの任意曲及び三線、クラリネット等のアンサンブル					
第5回： ハノン No. 39（4オクターヴのト長調・イ長調・ニ長調・ヘ長調・変ロ長調）及び各自の習熟度に応じた課題		第13回： ピアノの任意曲及びリコーダー（ソプラノ、アルト、テナー、バス）アンサンブル					
第6回： 任意曲（習熟度による課題曲） 例：「ショパンのピアノ遺作曲」、ブルグミュラの「ピアノ曲25作品の「貴婦人の乗馬」		第14回： 演奏会リハーサル					
第7回： 任意曲 例：「ベートーヴェン悲愴一楽章」、童謡「犬のおまわりさん」等		第15回： 演奏会					
第8回： 任意曲 例：ホルストの「惑星」4手連弾、「星に願いを」等							
テキスト： 各自楽譜持参、コピー資料		参 考 書：					
評価方法・評価基準：①授業への参加度②授業態度③ピアノ実技テスト ①～③を総合的に評価する。							
成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度					10		10
受講者の発表			10	10	60		80
演 習							
授業への参加度				10			10
その他							
履修上の注意：毎時間、レッスンカード票に自己の受講状況や進度を記録し提出する。 自分で選曲した課題曲や教員による課題を、事前レッスン（自己学習）して授業に臨むこと。							

授業科目名	2単位	担当教員																																																																
海外幼児教育研修（実習） （Presch. Ed. Overseas Fieldwork）																																																																		
授業の到達目標及びテーマ：実習を通して海外における保育の現状を理解する。 知識理解：価値観や文化の多様性を説明できる。      関心意欲：海外の幼児教育や保育に興味を持つ。 思考判断：自国の保育を客体化する。      態 度：異文化に対する適応力を持つ。																																																																		
<b>実習概要</b>  ハワイ大学カウアイ・コミュニティ・カレッジ（ハワイ州カウアイ島）において、研修生用に開設された講義を受講するとともに、就学前の乳幼児や保護者等を対象とした移動幼児教育プログラム「Tutu & Me」やハワイ語イマージョン教育施設「Punana Leo」にて参観実習を行う。これらの実習をととして、日本および沖縄の保育・幼児教育を客観的に観る視点を養う。2週間の研修期間が課せられる。																																																																		
テキスト：																																																																		
参 考 書：																																																																		
評価方法・評価基準：実習態度、実習レポートを中心に総合的に評価する。																																																																		
<table border="1"> <tr> <th>到達目標等</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>態度</th> <th>技能・表現</th> <th>その他</th> <th>評価割合(%)</th> </tr> <tr> <td>成績評価 試験 (中間・期末試験)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>小テスト・ 授業内レポート</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>受講者の発表</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>演 習</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>授業への参加度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	成績評価 試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート	○	○					20	授業態度								受講者の発表								演 習			○	○	○		80	授業への参加度								その他									
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																											
成績評価 試験 (中間・期末試験)																																																																		
小テスト・ 授業内レポート	○	○					20																																																											
授業態度																																																																		
受講者の発表																																																																		
演 習			○	○	○		80																																																											
授業への参加度																																																																		
その他																																																																		
履修上の注意：																																																																		

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
老人福祉論 (Welfare of the Aged)		近藤 功行

#### 授業の到達目標及びテーマ：

知識理解：事前予備知識は不要。医療福祉をより理解することができることを目指す。  
 関心意欲：医療・保健・福祉、障害者理解を含めた内容に興味を持てることを目指す。  
 思考判断：現代社会における福祉に潜む内容など、単方向でなく多層的理解を目指す。  
 その他：福祉の職場で保育士資格を有している人がいる。こうした人の知識に近づく。

**授業の概要：** 保育者養成における本講義の意義は、あらゆる子どもや障害児、者とその家族や高齢者の心理的側面の理解にある。また、高齢者の社会的ニーズについての社会的理解を深め、ノーマライゼーションの考え方が普及した中で、今後はさらにユニバーサルデザインなど一歩先行く概念の必要性などを考究しつつ、老人福祉サービスの包括的な体系を学ぶことも必要とされる。障害を持つ持たないに関わらず、人は必ず加齢に伴い老いを迎える。この時、障害を持つ可能性は高い。老人福祉法や介護保険制度などを学びながら、保育者として身につける豊かな人間性とケア能力を図る視点、資質を引き出す作業を講義を通して行うことを目指す。

#### 授 業 計 画

第1回：	老人と子ども両者に有効な福祉政策とは — 老人と子どもの交流—	第8回：	高齢者と幼児の世代間交流を考える視点（KJ法的手法によるグループ学習）①
第2回：	高齢者と子どもの「統合ケア」を考える視点	第9回：	高齢者と幼児の世代間交流を考える視点（KJ法的手法によるグループ学習）②
第3回：	3障害（身体・知的・精神障害者）と高齢者 を考える視点	第10回：	幼児の思いやり行動と高齢者との触れ合いを探 る視点
第4回：	ノーマライゼーション、ユニバーサルデザ イン理念を考える視点	第11回：	統合（障害者受け入れ）保育と幼老共生の視点
第5回：	バリアフリーのソフト面、ハード面を考える 視点	第12回：	福祉サービスを探る視点
第6回：	高齢者と子どもを同じ場所でケアすること に対する効果	第13回：	福祉コミュニティを探る視点
第7回：	高齢者と幼児の世代間交流を考える視点（ア ンケート作成手法を学ぶ）	第14回：	実り豊かな人生を考える
		第15回：	まとめ（最終レポート提出作業に向けての課題説 明&解説）

**テキスト：** 近藤功行（共著）1998『障害者の医療福祉のあり方についての考察』、川崎医療福祉学会誌 8(1)  
 近藤功行（共著）2000『高齢者の障害者でのQOL意識に関する研究』、保健の科学 42(1)  
 社会福祉士・介護福祉士・社会福祉主事制度研究会（監修）2002  
 社会福祉士・介護福祉士・社会福祉主事関係法令通知集、第一法規

**評価方法・評価基準：** 毎時間、感想用紙(B4) 1枚を配布し、時間内に記述、回収する。この感想用紙の左端には講義に関連した質問内容を、右側には講義の感想を記述する欄を設けて書いてもらう。また右側の下部に「ここで一言」のコーナーを設け、ここは自由記載とする。欠席した場合も、後でこの感想用紙は提出して欲しい(この場合、講義の感想欄は配布プリントを読んだ感想内容でよい)。なお、この感想は講義の理解度を知る上で用いるものであり、試験にかかわるレポート課題は終盤の講義で明示し、B5版の用紙に作成してもらうことになる。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○					60
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○		○		20
授業態度							評価に加えず
受講者の発表							評価に加えず
演 習							評価に加えず
授業への参加度							20
その他							なし

**履修上の注意：** 予備知識は必要としない。講義は毎時間、担当者作成のプリント配布により行う。積極的に質問や発言することは大いに歓迎したい。講義で疑問に思ったことの学習なども含め、積極的な取り組みをして欲しい。なお、講義で課すものではないが、受講者のなかで国立療養所沖縄愛楽園訪問希望者があれば、訪問を計画、実施したい。